

大月駅周辺整備に関する検討報告書

(主要検討課題に対するとりまとめ)

平成18年12月

大月駅周辺整備検討委員会
大 月 市

目次

0 . はじめに	P1
1) 大月駅周辺整備検討委員会の設置	P1
2) 検討の経緯	P1
1 . 大月駅周辺整備の基本方針	P3
1) 大月駅周辺地区の再生に向けたシナリオ	P5
2) 大月駅周辺整備の基本方針とゾーン別コンセプト	P6
2 . 交流拠点としての駅前広場の施設整備	P7
1) 駅前広場整備の全体方針	P8
2) 駅前広場整備の個別基本方針	P8
3) 駅前広場におけるユニバーサルデザイン基本方針	P9
4) 南口駅前広場レイアウト案	P10
3 . ユニバーサルデザインにもとづく施設整備	P11
(参考資料) 他都市におけるユニバーサルデザインの取組み事例	
1) 沼津駅北口駅前広場	P12
2) 設備事例	P13
4 . 魅力あるまちなみデザイン	P14
1) 景観形成の必要性	P15
2) 景観・まちなみの検討プログラム	P16
5 . 賑わいのある商業地づくり	P17
1) まちづくり・ソフト方策の検討アプローチ	P18
2) 広場・滞留空間等の活用方向(案)	P19
6 . 現駅舎の取扱い	P21
1) 現駅舎の活用・保存方法の比較検討	P23
7 . 市民アンケート	P24
1) 市民アンケート調査結果の概要	P25
2) 市民アンケート調査結果にみる市民ニーズと 駅前周辺整備計画案の方向性について	P30
8 . その他	P31
1) 基本方針と整備事業の関連性について	P31
2) とりまとめと今後の検討課題の整理	P32

【参考資料】

大月駅周辺整備検討委員会 議事録	-1-
------------------------	-----

0 . はじめに

1) 大月駅周辺整備検討委員会の設置

大月市では、大月駅周辺整備事業として、駅前通りの県道拡幅や南北駅前広場の整備、南北自由通路、大月駅舎の橋上化とバリアフリー化等々を行い、中心市街地の活性化を図り、賑わいと魅力あるまちづくりを実現するため、平成 18 年 4 月 20 日に国、県、公共交通機関、地元商業者、駅利用者、学識経験者、行政当局等からなる大月駅周辺整備検討委員会を設置した。また、デザイン・アドバイザーとして委嘱された東京芸術大学の 2 人の先生方にも委員会に参加願ひ、駅舎・自由通路の設計や景観形成についての議論に参加してもらった。

2) 検討の経緯

本年度は、計 6 回の検討委員会を開催し、大月駅周辺整備に係る検討課題等の議論を行った。

検討委員会の実施経過

開催日	議 題	検討に関わる調査等の実施
第 1 回 平成 18 年 4 月 20 日	<ul style="list-style-type: none">・大月駅周辺整備事業の経緯及び基本構想について・今後の事業計画策定の進め方について・検討テーマにもとづく協議・検討・その他	
第 2 回 平成 18 年 5 月 31 日	<ul style="list-style-type: none">・第 1 回検討委員会議事録の承認について・第 1 回検討委員会での要望意見等について・骨格整備計画とデザイン方針 + 設計の条件について・その他	
第 3 回 平成 18 年 7 月 19 日	<ul style="list-style-type: none">・第 2 回検討委員会議事録の承認について・第 2 回検討委員会での要望意見等について・駅舎及び自由通路の基本設計案について・その他	
		7 ~ 8 月 : 市民アンケート調査
第 4 回 平成 18 年 9 月 25 日	<ul style="list-style-type: none">・第 3 回検討委員会議事録の承認について・市民アンケート調査結果と整備計画案の方向性について・駅周辺地区の景観形成の検討プログラムについて・その他	
第 5 回 平成 18 年 11 月 13 日	<ul style="list-style-type: none">・第 4 回検討委員会議事録の承認について・駅周辺地区のまちなみ景観の基本コンセプトと今後の推進体制について・現駅舎の取扱いについて・整備プログラムと実現方策...設計の内容確認 (まちづくり交付金本要望の内容について)・その他	
第 6 回 平成 18 年 12 月 6 日	<ul style="list-style-type: none">・第 5 回検討委員会議事録の承認について・主要検討課題に対すとりまとめについて・その他	
(郵送による承認)	<ul style="list-style-type: none">・第 6 回検討委員会議事録の承認について・主要検討課題に対すとりまとめの承認について	

大月駅周辺整備検討委員会

委員長	山梨大学大学院	教授	西井和夫
副委員長	大月市商工会	会長	平井 誉

デザイン・アドバイザー

東京芸術大学美術学部デザイン科	教授	尾登誠一
東京芸術大学美術学部デザイン科	助教授	清水泰博

次頁より、本年度の検討委員会で議論を行った主要検討課題及び、それらに関するとりまとめや、今後の事業推進に向けた検討の方向等について整理する。

3 . ユニバーサルデザインにもとづく施設整備

とりまとめと今後の検討課題

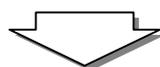
検討委員会では施設整備におけるユニバーサルデザイン事例について整理し、各整備においてユニバーサルデザインに配慮していくことを確認した。

以下に、本検討委員会における主要意見ととりまとめを示す。

検討委員会における主要意見

- ・大規模な整備が行われることになるため、工事期間中の安全性や不便さへの対応をお願いしたい。
- ・ユニバーサルデザインの考え方と広場のレイアウト案について整合させて、検討案を詰めて欲しい。
- ・北口には用地があるため、北口に一般駐車場を持っていき、南口は障害者に配慮した計画にして欲しい。
- ・駅の利用者にとっての安全性、快適に使える駅や広場整備が第一だと思う。
- ・エレベーターやエスカレーターは利用者数から設置するのではなく、安全や使い勝手を考慮して設置して欲しい。
- ・ユニバーサルデザインのトイレなど新しい設備は素晴らしいが、設備を充足するだけでなく、その設備の使い勝手にも配慮して欲しい。

ユニバーサルデザインについては、全ての施設整備に関する当然の配慮である。



*上記「 」部分は委員長による
とりまとめ

計画の具体化

- ・交通バリアフリー法に定められている標準的なデザインの適用を前提とし、他都市における事例等を参考にユニバーサルデザインを反映していく。
- ・改札内のユニバーサルデザインについては、鉄道事業者と協議を行い具体化を図る。
- ・橋上駅舎化に伴う歩行者の移動の円滑化については十分に配慮する。

施工期間中の配慮

- ・事業の施工期間中においては、最小限の支障にとどめる工事計画を検討する。

1. 大月駅周辺整備の基本方針

とりまとめと今後の検討課題

検討委員会では、大月駅周辺における現状の課題から地域の再生に必要なことから分類整理し、それらを踏まえて基本方針とゾーン別コンセプトの設定を行った。

以下に、本検討委員会における主要意見ととりまとめを示す。

検討委員会における主要意見

- ・予算に配慮しながら、事業の中で重点的に取り組むべきことを整理する必要があるのではないか。
- ・骨格を考えて行く際に、どのような観点から整備を進めていくべきかを様々な立場から意見を述べ合い、委員会として集約していくのが目的であるため、そのように意見・議論を進めていきたい。
- ・予算への配慮も大切だが、駅というものがどういったものであるべきなのかということを考えていけないのではないか。理想型を色々出した後で、大月として目指す方向性を固める必要があると思う。
- ・大月駅は大月市にとって顔の役割を果たすため、広場を大月の特徴である自然との調和を実感できるような駅前広場にしたいほうがよいのではないか。
- ・市の歴史的な流れとして、かつての主要産業である織物関連の古い建物がまだ駅前に残っており、どのように活かしていくのかを考える必要があると思う。
- ・デザインを考える際に、物語性やシナリオをつくる必要がある。例えば、機能的な歩行者動線というのは安全性が高いが、心の動線を考えることが非常に重要であり、最近の駅というのは機能的過ぎてストーリーも無くつまらない空間になっている。
- ・テーマとしては、自然や季節感、歴史、月、富士山といった要素をいかにして駅の空間やデザイン、施設の中に取り込んでいくかを考えていくことになると思う。
- ・「南口広場」「北口広場」「橋上駅舎」「南北自由通路」の4つを個々に考えるのではなく、トータルに考えてデザインしていくことが大切である。
- ・駅周辺の現状は山も多いが電線・架線も非常に多く、これらが無くなればもっと素晴らしい景色になるのではないか。
- ・眺望や軸線を活かすのは、そこにしかないモノ（景色）ということで、大月市の特徴を出せると思う。



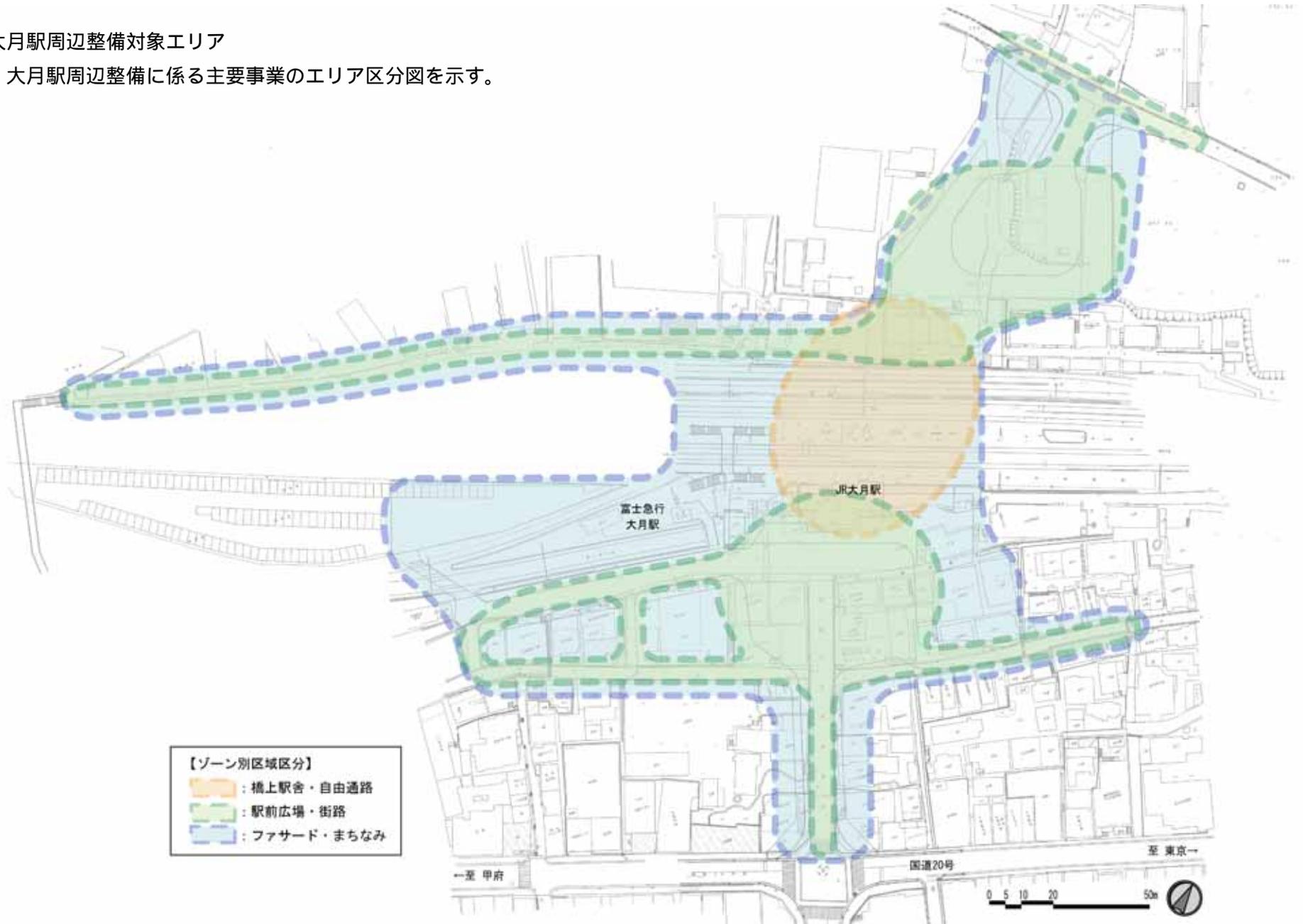
各事業の整合（全体イメージの統一）

- ・大月駅周辺整備において予定される各事業の具体化にあたっては、本検討委員会で設定された基本方針やコンセプトをベースに全体イメージの統一を図っていく。

大月駅周辺整備対象エリア

大月駅周辺整備に係る主要事業のエリア区分図を示す。

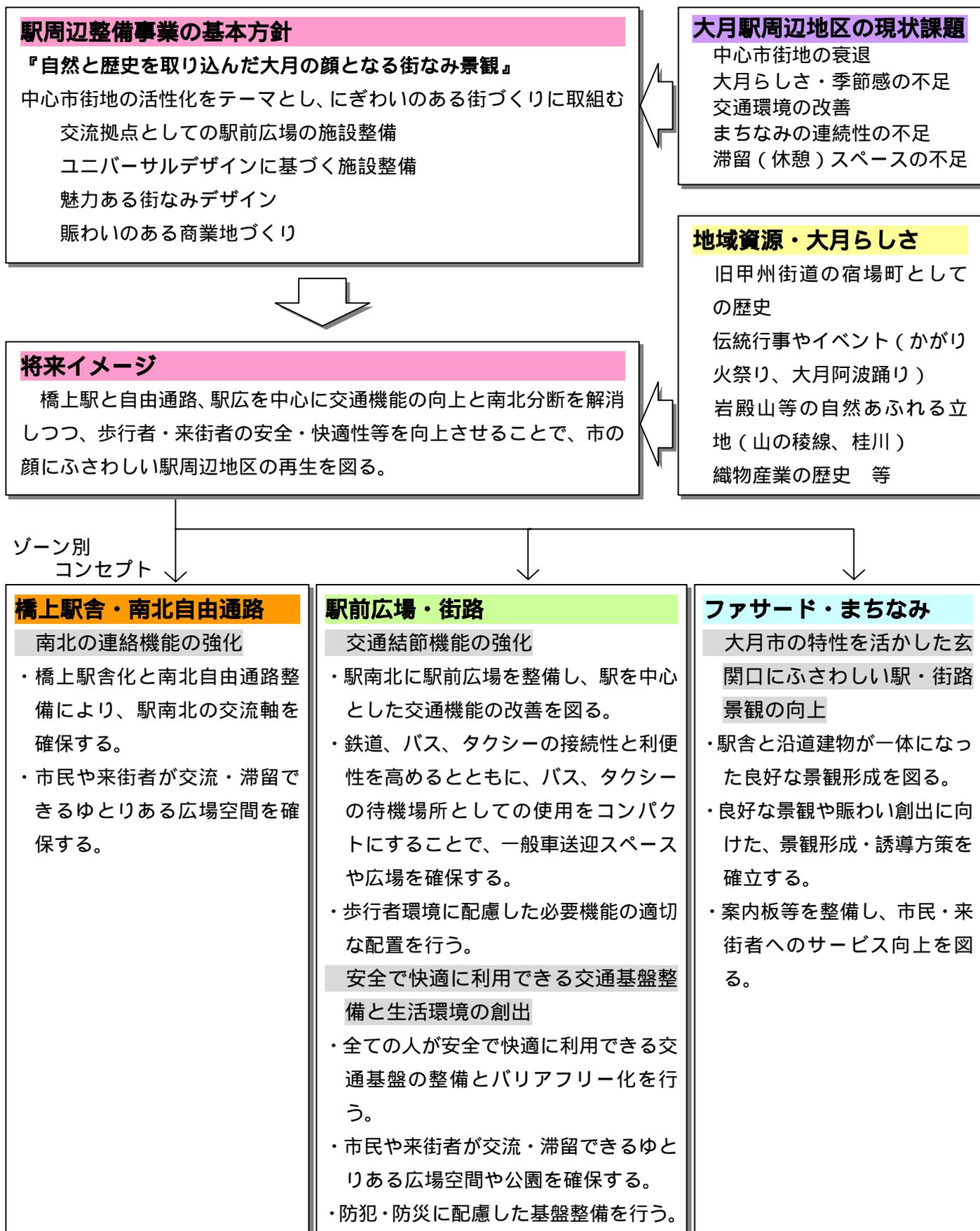
4



1) 大月駅周辺地区の再生に向けたシナリオ



2) 大月駅周辺整備の基本方針とゾーン別コンセプト



* 各ゾーン区分については4頁図参照

2. 交流拠点としての駅前広場の施設整備

とりまとめと今後の検討課題

検討委員会では駅前広場整備の基本方針とレイアウト案について検討を行った。以下に主要意見ととりまとめを示す。

検討委員会における主要意見

- ・現状の駅前には自然を感じることができないため、地域の特徴を感じさせる駅前空間を計画して欲しい。
 - ・一般車駐車を連絡する横断歩道の場所などを配慮して欲しい。
 - ・バスよりも一般市民（車）の乗降を優先すべきではないか。
 - ・使いやすさより安全性をとれば動線分離型がよいと思う。
 - ・広場の入り口部分に横断歩道を設置したほうがよいのではないか。横断歩道の設置により事故防止につながると思う。
 - ・限られた空間の中で、あえてバスのロータリーを取る必要はないと思う。
 - ・さつき通りは生活道路なので、一方通行となると生活に支障を与える恐れがある。
 - ・北口には用地があるため、北口に一般車駐車場を持っていくなどして、南口は障害者に配慮した計画にして欲しい。
 - ・駅の利用者にとっての安全性、快適に使える駅や広場整備が第一だと思う。
 - ・駅への送迎車両のうち、短時間待機する車両については短時間駐車場に移動するマナーと誘導が必要。
 - ・現状では大月駅の使われ方として、一般車の送迎が多いと思うが、計画案では乗降場が2台では少ないのではないか。
 - ・バイパスが開通すると、駅での一般車乗降や駐車場利用者が増えることが予想される。
 - ・広場内に2階建て駐車場が必要ではないか。
 - ・ロータリー型と動線分離型について具体的な比較検討を行うべきではないか。
 - ・冬場に駅から出て、バスを待つ際にシェルターに囲いが無いのは寒い思いをすることになる。
 - ・駅舎と同時に1階に（現駅舎の）待合も大事だと思う。
 - ・富士急の駅舎の辺りで待合を確保できないのか。
 - ・今回できる駅は2階に改札口ができるため、待合を作る際に北口と南口から来られて駅員が見える範囲となると、2階に持つてこざるを得ないということを理解していただきたい。（アドバイザリー）
 - ・自由通路の（軸線上）正面の樹木は、大月の語源であるケヤキを使用して欲しい。
- ユニバーサルデザインの考え方と広場レイアウトについて整合させて、検討案を詰める。
歩行者の使い勝手など総合的に見て、ロータリー型を基本に詳細検討を進める。
JRの駅舎を橋上化するに際して、富士急行との接続に関して配慮して欲しい。また、今後鉄道事業者の個別事業が出てくると思うので十分に整合させて進めて欲しい。



*上記「 」部分は委員長によるとりまとめ

南口駅前広場の基本レイアウト案

- ・空間的な制約やバス運行の円滑さの確保など車両動線等を考慮し、ロータリー型を基本として、今後、レイアウトの具体化を図る。

ユニバーサルデザインへの配慮

- ・計画案の具体化に合わせて、使いやすく、魅力的な駅前広場の実現を図っていくこととする。また、ユニバーサルデザインに配慮した広場を実現する。

1) 駅前広場整備の全体方針

駅前広場整備にあたり、全体方針を以下のように設定する。

交通結節機能と南北の連絡機能の強化を図る。

- ・ 駅南北に駅前広場を整備し、駅を中心とした交通機能の改善を行う。
- ・ 駅前広場においては、鉄道、バス、タクシーの接続性と利便性を高めるとともに、バス、タクシーの待機場所としての使用をコンパクトにすることで、一般車送迎スペースや広場を確保する。
- ・ 橋上駅舎化と南北自由通路整備により、駅南北の交流軸を確保する。
- ・ 歩行者環境に配慮した必要機能の適切な配置を行う。

安全で快適に利用できる交通基盤整備と生活環境の創出を図る。

- ・ 全ての人々が安全で快適に利用できる交通基盤の整備とバリアフリー化を行う。
- ・ 市民や来街者が交流・滞留できるゆとりある広場空間や公園を確保する。
- ・ 防犯・防災に配慮した基盤整備を行う。

大月市の特性を活かした玄関口にふさわしい駅・街路景観の向上を図る。

- ・ 良好な景観や賑わい創出に向けた、形成・誘導方策を確立する。
- ・ 駅舎と沿道建物が一体になった良好な景観形成を図る。
- ・ 案内板等を整備し、来街者へのサービス向上を図る。

2) 駅前広場整備の個別基本方針

検討案作成にあたり、計画条件や全体方針を踏まえ、歩行者空間や各交通機能の基本方針を以下のように設定する。

分類	基本方針	備考（検討課題等）
歩行者	十分な歩道幅員を確保しつつ、魅力ある歩行者空間の演出を基本とする。 ・ 車道横断の少ない安全・快適な歩行者空間を確保する。 ・ 広場への車両流入路を規制することで、連続した歩道を確保する。	・ 自転車駐輪場・アクセス動線の確保 ・ ユニバーサルデザイン対応（次頁表参照）
交通機能 バス、タクシー、 一般車	交通結節点として、必要機能を確保したコンパクトな交通空間の確保を基本とする。 ・ 各交通機能の接続性と利便性の向上を図る。 ・ 歩行者動線と分離した円滑な交通流動を確保する。	・ 遠隔配置の待機プールと駅前プールの容量や、配車システム等の具体化 ・ 広場通過交通への対応 ・ 南北広場での機能分担 * 計画の具体化に当たっては、関係機関と調整中
広場空間	限られた空間の中で、駅の利用者や歩行者が集えるゆとりのある空間確保を基本とする。 ・ 全ての利用者にとって憩いの場所であり、イベントの開催場所にもなる空間確保と演出を行う。 ・ 大月市の顔として、広場・駅舎・周辺街区が一体になった大月らしさのある良好な景観形成を図る。	・ イベントや災害時における必要設備の確保 ・ 案内板等の設置 ・ 大月らしさの演出 * 計画の具体化に当たっては、関係機関と調整中
南北 自由通路	南北の連絡施設として全ての人々が安全・安心に利用できる施設整備を基本とする。 ・ ゆとりある幅員を確保しつつ、バリアフリーに配慮した全ての人々が使いやすい空間とする。 ・ 絵画展示などの多目的スペースを確保することで、利用者の滞留空間や大月市のアピールスペースを確保する。	・ ユニバーサルデザイン対応（次頁表参照） * 計画の具体化に当たっては、関係機関と調整中

3) 駅前広場におけるユニバーサルデザイン基本方針

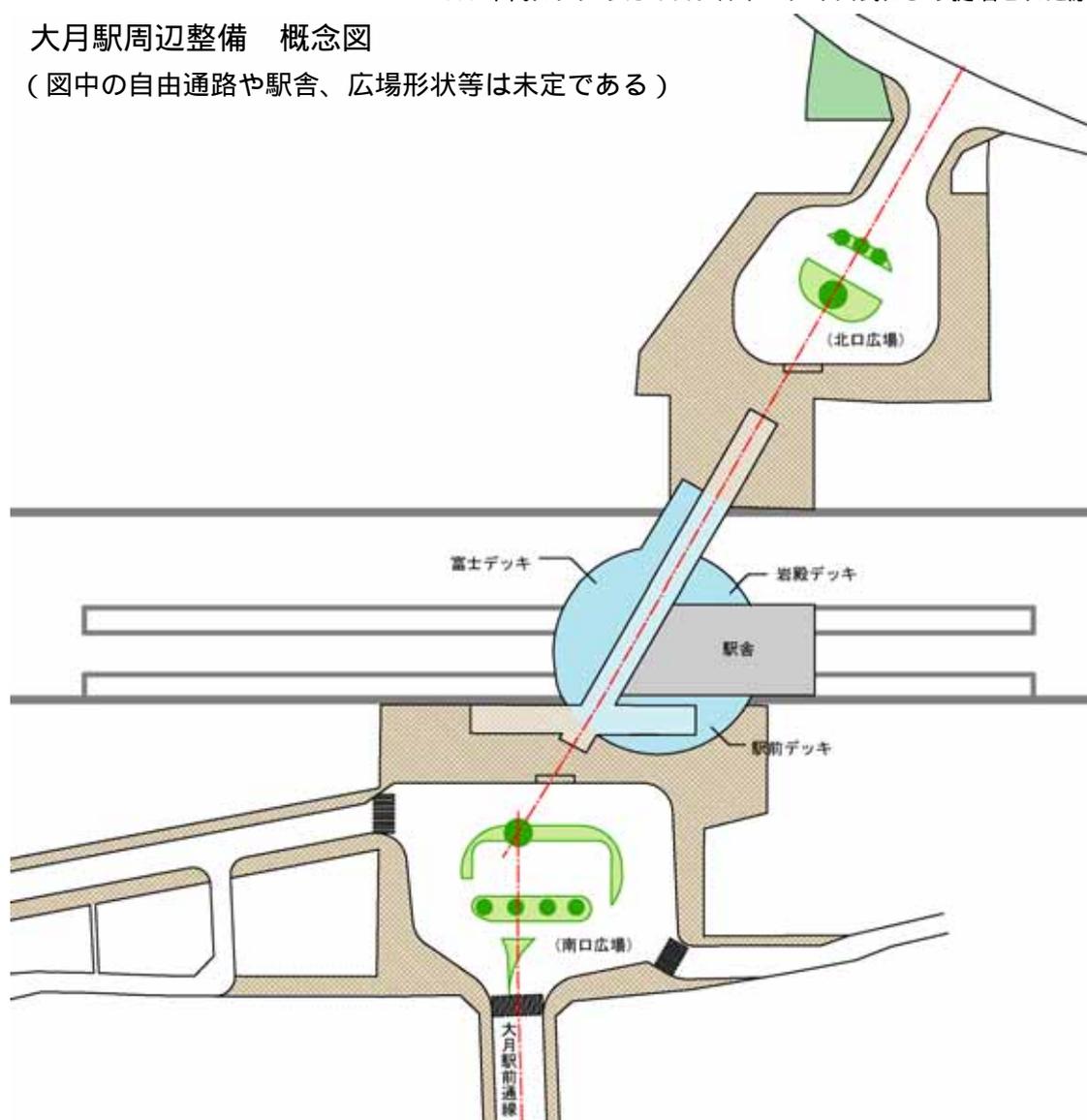
ユニバーサルデザインの7つの原則*にあわせ、大月駅駅前広場における基本方針を以下のよう設定し、誰もが使いやすい駅前広場の実現を図る。

原則	大月駅駅前広場での考え方
誰でも公平に利用できる(公平性)	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の段差や横断勾配等への配慮と、歩きやすい舗装材の選択 誘導ブロックの設置
使う上で柔軟性に富む(自由度)	<ul style="list-style-type: none"> 多目的なイベント開催に対応できる交流広場の確保
簡単で直感的に利用できる(単純性)	<ul style="list-style-type: none"> 駅直近にわかりやすく配置された各乗降場(バス、タクシー、一般車) 交錯の少ない車両動線・流動の確保
必要な情報が簡単に理解できる(分かりやすさ)	<ul style="list-style-type: none"> 適切なデザインと配置のサイン計画
単純なミスが危険につながらない(安全性)	<ul style="list-style-type: none"> 車道横断のない乗降場へのアクセス 連続的な街灯の設置
身体的な負担が少ない(省力性)	<ul style="list-style-type: none"> 勾配を極力緩やかに抑えて、地上レベルを中心にした歩行者動線
接近して使える寸法や空間になっている(スペースの確保)	<ul style="list-style-type: none"> ゆとりある歩道幅員の確保 障害者対応の乗降場と、使いやすいトイレの確保

*1980年代にアメリカのロナルド・メイス氏により提唱された原則

大月駅周辺整備 概念図

(図中の自由通路や駅舎、広場形状等は未定である)



4) 南口駅前広場レイアウト案

	第1案：ロータリー型	第2案：動線分離型
平面図		
概要	ロータリーの周りを全ての車両が同じ方向に走行する形式	「一般車・タクシー用」と「バス専用」にエリアを分離し、それぞれ独立して走行する型式
長所	<p>【走行性】全ての車両の流れが一定方向のため、運転者が混乱しない。</p> <p>【機能性】第2案に比べ、多くの施設容量を確保できる。(一般車乗降場、一般車駐車場)</p> <p>【利便性】接道する全ての道路からの流入・流出が可能である</p>	<p>【機能性】独立したバスロータリーを確保することで、バス運行への支障が軽減される。</p>
短所	<p>【機能性】一般車がバス乗降場の脇を通過するため、バス運行に支障をきたす場合があり得る。</p>	<p>【機能性】分離型にするには用地が狭く、「一般車・タクシー用」のエリアが狭隘となる。</p> <p>また、第1案に比べ施設容量が少ない。(一般車乗降場、一般車駐車場)</p> <p>【利便性】一般車の「さつき通りから駅広への流入」「駅広からさつき通りへの流出」が不可能である。</p> <p>さつき通りからは、R20へ抜けるのみである。</p>
評価	走行安全性が高く、接道する全ての道路からの流入・流出が可能であり、施設容量も多く確保できる【第1案：ロータリー型】が適している。	

(参考資料) 他都市におけるユニバーサルデザインの取り組み事例

1) 沼津駅北口駅前広場

- ・ JR沼津駅北口駅前広場では、計画段階から障害者、高齢者等の意見を図面上だけでなく、現地点検も行い整備を進めた。
- ・ 環境への配慮として、施設の電源には太陽光発電を採用している。



【誘導ブロックの工夫】

- ・ 弱視の方が誘導ブロックを認識し易くするため、黒のサイドブロックで縁どり
- ・ 横断歩道内に誘導ブロックの役割を果たすエスコートゾーンを設置。



【ベンチの工夫】

- ・ 年齢や障害に応じて座りやすい座面が選べるよう、高さを三段階にして設置。



【バス・タクシー乗降場所の工夫】

- ・ 乗降の際に雨に濡れない様にシェルターを車道側に張り出している。
- ・ タクシーのすりつけ部分には、ほとんど段差がない。



【バス乗降場所の工夫】

- ・ バスの乗降場所には、あえて15cm程の段差を設け、ノンステップバスの乗降や、車椅子用スロープ使用時に配慮している。

2) とりまとめと今後の検討課題の整理

項目	とりまとめと今後の検討課題	備考
1. 大月駅周辺整備の基本方針	<p>各事業の整合（全体イメージの統一）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大月駅周辺整備において予定される各事業の具体化にあたっては、本検討委員会で設定された基本方針やコンセプトをベースに全体イメージの統一を図っていく。 	
2. 交流拠点としての駅前広場の施設整備	<p>南口駅前広場の基本レイアウト案</p> <ul style="list-style-type: none"> 空間的な制約やバス運行の円滑さの確保など車両動線等を考慮し、ロータリー型を基本として、今後、レイアウトの具体化を図る。 <p>ユニバーサルデザインへの配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画案の具体化に合わせて、使いやすく、魅力的な駅前広場の実現を図っていくこととする。また、ユニバーサルデザインに配慮した広場を実現する。 	* 駅舎、自由通路整備は、鉄道事業者と協議中
3. ユニバーサルデザインにもとづく施設整備	<p>計画の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通バリアフリー法に定められている標準的なデザインの適用を前提とし、他都市における事例等を参考にユニバーサルデザインを反映していく。 改札内のユニバーサルデザインについては、鉄道事業者と協議を行い具体化を図る。 橋上駅舎化に伴う歩行者の移動の円滑化については十分に配慮する。 <p>施工期間中の配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の施工期間中においては、最小限の支障にとどめる工事計画を検討する。 	
4. 魅力あるまちなみデザイン	<p>検討部会の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> 大月駅周辺整備の景観に関する部会を検討委員会の中に設置し、沿道景観形成手法等について議論する専門委員や地元代表、地権者等による検討体制を設立する。 <p>ファサード計画等の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> 検討委員会での検討を踏まえ、大月市の特性をいかした駅周辺地区における良好なまちなみを実現するため、民有地におけるデザインの統一（ルール）やファサード計画等を策定する。 <p>検討部会の情報公開</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観形成には、市民参加と協力が重要になり、大月駅周辺地区の整備を契機として、景観形成に関する市民の意識向上を図るため、検討内容や議事録等の情報公開を行うとともに、市民参加を積極的に呼びかけていく。 	* 関連事業スケジュールに配慮しつつ、具体化を図っていく

2) 設備事例



【JR 東日本・相模湖駅】

- ・背もたれを設置
- ・片手で切れるトイレットペーパーホルダー
- ・着座のしやすさに配慮した可動式の手摺り
- ・オストメイト（人工肛門）の方のためのしびん洗浄水栓



【つくばエクスプレス・新御徒町駅】
・車椅子が中で回転する必要がない通り抜けタイプのエレベーター



【つくばエクスプレス・青井駅】
・階段にエスカレーターを設置



【JR 北海道・手稲駅】
・床の点字ブロックに合わせて天井にラインを入れ、弱視の方が認識しやすいように工夫した例。



【JR 東日本・館山駅】
・手を突いたり、洋服の袖口が引っ掛からないように、手すりの端部処理を工



【つくばエクスプレス・新御徒町駅】
・駅構内案内板（点字・音声案内）

4. 魅力あるまちなみデザイン

とりまとめと今後の検討課題

検討委員会では主に良好な景観形成の必要性及び、プログラムの確認、検討体制について検討を行った。

以下に、本検討委員会における主要意見ととりまとめを示す。

検討委員会における主要意見

- ・検討部会では、一般市民を多く加えて行って欲しい。
 - ・セットバックや意匠関係に関しては、なるべく多くの関係者を入れて議論を行った方が良い。
 - ・事業実施段階で計画を聞いていない住民が出ないようにする必要がある。
- 部会の中で景観形成に関わる基本的な考え方の合意形成と、景観整備に関して利害が関係する地権者意向を調整する必要がある。
- 部会においては、スケジュールに配慮して後伸ばしにならないようにコントロールしていかないといけない。



*上記「 」部分は委員長によるとりまとめ

検討部会の設立

- ・大月駅周辺整備の景観に関する部会を検討委員会の中に設置し、沿道景観形成手法等について議論する専門委員や地元代表、地権者等による検討体制を設立する。

ファサード計画等の策定

- ・検討委員会での検討を踏まえ、大月市の特性をいかした駅周辺地区における良好なまちなみを実現するため、民有地におけるデザインの統一（ルール）やファサード計画等を策定する。

検討部会の情報公開

- ・景観形成には、市民参加と協力が重要になり、大月駅周辺地区の整備を契機として、景観形成に関する市民の意識向上を図るため、検討内容や議事録等の情報公開を行うとともに、市民参加を積極的に呼びかけていく。

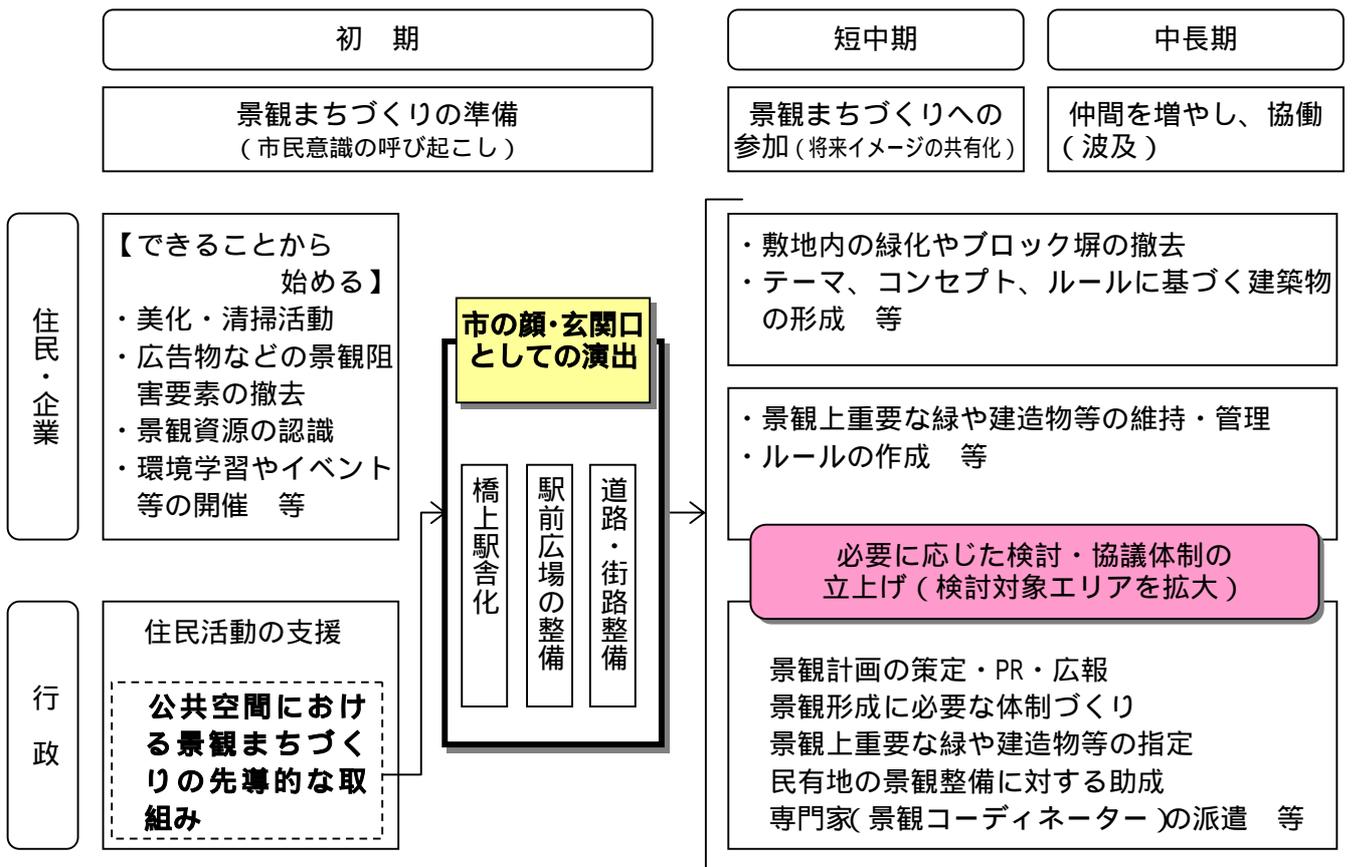
1) 景観形成の必要性 (大月駅周辺地区の景観再生の契機である駅周辺整備事業)

大月の特色を活かした良好な景観形成のため、これまで統一感なく、進められてきた無計画な個別開発ではなく、地域住民が共通して目指すべき将来像(テーマ)の実現に向けて取り組んでいく必要があり、駅周辺整備は市の玄関口再生と市民意識の呼び起こしの契機となる事業である。

景観まちづくりの先導的な取り組みが大月駅周辺整備事業であり、駅舎の橋上化や駅前広場整備により市の玄関口が再生される。(下図参照)
あわせて、道路の拡幅・新設・改良が予定されており、特に拡幅路線においては、新たなファサード(建物外観)が形成されることになる。



これらを契機(モデル)として、
民有地や沿道建物を含めた駅周辺地区の景観形成が期待される。

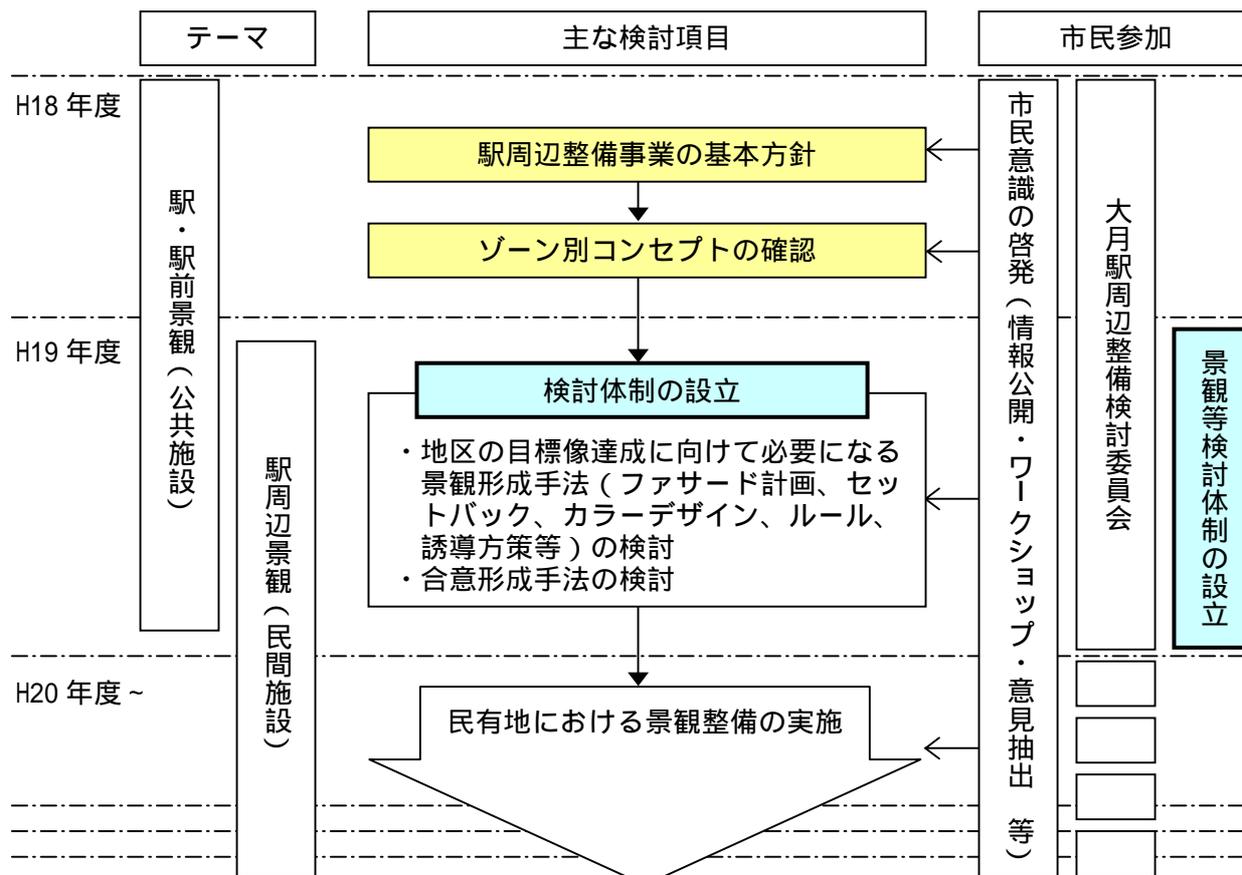


2) 景観・まちなみの検討プログラム

景観形成には、地域住民の積極的な参加が不可欠であり、地区の景観資源の抽出やルールづくり、色彩計画など、将来像の実現に向けた検討が必要になる。

大月駅周辺整備検討委員会では、駅舎や自由通路、駅前広場といった公共施設の基本コンセプトや基本方向について設定を行い、それらを踏まえて、来年度より沿道の建物や駐車場などの民間施設や公共空間の植栽（樹種）など具体的なイメージづくり等を行っていく。

検討プログラム

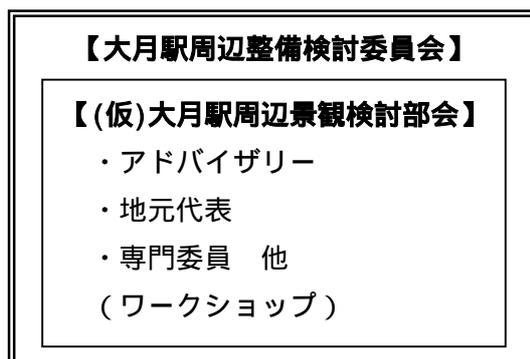


* スケジュールについては、関連事業と調整中

検討体制

検討委員会 + 検討部会 市民・地元

・検討委員会の中に部会を設置し、専門委員等とともに検討を行う。また、必要に応じワークショップ等の開催も検討する。



5. 賑わいのある商業地づくり

とりまとめと今後の検討課題

検討委員会では新たに創出される広場や多目的スペース等の確認と、賑わいづくりの必要性、今後の検討内容等について確認を行った。

検討委員会における主要意見

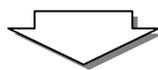
- ・現状の駅前には、電車を降りて駅を出て直ぐに帰ってしまう利用者が多いと思うので、何か駅前広場で人々が立ち止まり、賑わいを演出する工夫をお願いしたい。
- ・中心市街地活性化と連携させるため、民有地の誘導・活用等についても検討が必要である。
- ・関連事業や方策として人が集まった時に行う活動・交流のコンテンツ・ソフト方策などの対応も必要となってくる。
- ・賑わい創出、まちなみ形成、交通結節点整備、これらの3つが本来なら並行して進められるのが望ましかったと思う。
- ・ソフト方策からのハード整備について積極的に検討して欲しい。
- ・賑わいある商業地づくりといった時に、景観形成も大きな柱の一つだが、それだけでは賑わいづくりは解決しないと思う。
- ・フラットなコインパーキングであれば、イベントスペースとしても活用ができる。
- ・賑わいづくりとして一番重要なのは駅に降り立った人が、駅前広場の周辺に魅力ある商業施設などを感じられる駅前づくりだと思う。

まちづくりとして駅を考える必要があり、玄関口としての駅で来街者を立ち止まらせるアイデアを各委員や事務局から色々出した上で検討を行い、設計やデザインに反映させていければと思う。

商業の活性化に向けた取組みを実行していく必要があり、それらを今回の事業とどのように連携させていくかが必要である。

現在、賑わい創出の具体的なメニューや取組みについては検討中ということであるが駅周辺整備において、賑わいある商業地づくりについて検討を行っていくことは重要であり、賑わいづくりに向けた方針を今年度は検討してきた。これらを来年度以降の検討委員会へ反映させて行きたい。

賑わいづくりや商業地に関しては、商工会等の内部だけの議論でなく、来年度から本検討委員会の中で委員の皆さんと積極的に議論していきたい。



* 上記「 」部分は委員長によるとりまとめ

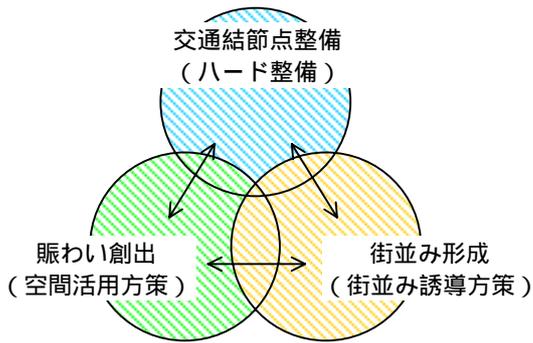
賑わいづくりの連携

- ・賑わいづくりに資する事業メニューやソフト方策については、引き続き商工会や大商協等と協議を行い、来年度の検討委員会においても協議を行う。

ハード整備とソフト方策の連携

- ・ハード整備のプログラムに配慮しつつ、ソフトメニューの具体化を早急に詰めていく必要がある。

1) まちづくり・ソフト方策の検討アプローチ



賑わい創出に向けた検討として、以下に示すようなアプローチで総合的に検討を行っていく必要がある。

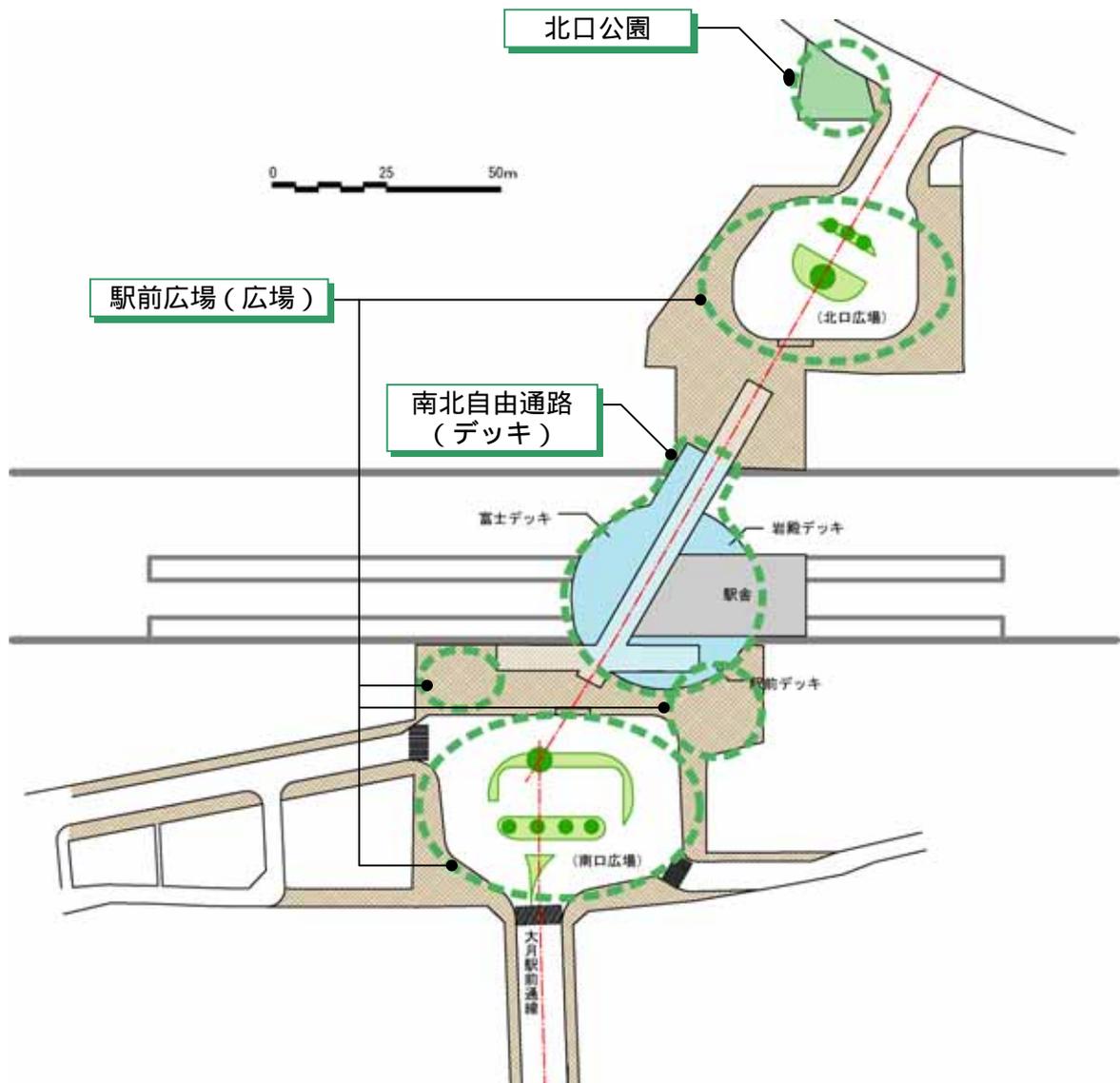
- ：新設される広場の活用方法や、既存のイベントを実施するために必要な空間・設備の確保
- ：整備される広場の植栽や色彩など景観形成の視点からの作りこみ（一体的な景観演出）
- ：民間敷地など沿道から波及する賑わいの演出

(1) 広場・滞留空間の確保

大月駅周辺整備事業により、『駅前広場』『南北自由通路』『北口公園』といった広場や滞留スペースの整備が予定されている。

これらの空間を活用した賑わい創出方法について今後、具体化を図っていく必要がある。

新設される広場・滞留空間（図中の自由通路や駅舎、広場の形状等の計画線については未定）



2) 広場・滞留空間等の活用方向(案)

ア 広場空間(駅前広場、公園)

交流・滞留機能

- ・市民や来街者が交流できるゆとりある空間を確保する。
- ・緑陰やパーゴラ、ベンチ等を確保し、談笑スペースなど地域住民の憩いの場を確保する。

必要設備：ベンチ、パーゴラ、植栽 等



岡山駅東口(岡山県)

イベント機能

- ・市役所駐車場で開催されている日曜朝市やJ.Cの土曜夕市を駅前広場でも開催する。
- ・駅前広場内への車両進入を規制することで、祭りや大規模なイベントを開催する。

必要設備：給排水設備、電力設備 等



阿佐ヶ谷駅南口(東京都)

防災機能

- ・災害時や緊急時の避難場所として、必要設備及び、空間の確保を図る。

必要設備：貯水槽 等



耐震貯水槽

イ 滞留空間(自由通路)

情報発信・アピール

- ・富士山の眺望ポイントが多数ある大月市として、富士山を題材とした写真展や絵画展等を開催する。
- ・地域情報やイベント情報の掲示。

必要設備：移動可能ベンチ・掲示板 等



名取駅(宮城県)

ミニイベント

- ・名産品のワゴン販売による物産展や、市民・学生主催のコンサート、パフォーマンスの開催等の多目的な利用に対応できる空間の確保を図る。

必要設備：可動式設備(テント、ベンチ)



坂出駅(香川県)

ウ その他（市の特性を活かしたメニュー例）

大月市の自然的特性や観光資源を活かした広場・滞留空間への導入機能の例を以下に示す。

眺望スペース

駅舎や自由通路は約3階レベル程度まで上がるため、大月市の特色である山々への眺望ポイントとして眺望スペースを確保する。

【参考事例】



松本駅（長野県）
ガラス張りで、晴れた日にはアルプスが眺望できる。



八街駅 計画案（千葉県）
自由通路内には市民に親しまれる施設となるよう、展望施設や展示コーナー（5箇所）を整備予定。

6 . 現駅舎の取扱い

とりまとめと今後の検討課題

検討委員会では、アンケート結果や委員からの意見を受けて、現駅舎の取扱いについて、検討を行った。

以下に、検討委員会における主要意見ととりまとめを示す。

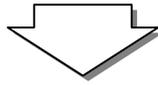
検討委員会における主要意見

- ・現在のログハウス風の駅舎は残して欲しい。
- ・大月駅は JTB の 21 世紀に残したい駅 100 選にも入っているので、現駅舎の保存や何らかの方法での活用、イメージの存続を希望したい。
- ・鉄道事業者としては完全な保存は難しく、保存の程度についても未定である。
- ・大月の歴史を考えた場合に、少なくとも部分保存ぐらいしなければ、後々後悔するのでは。
- ・大月駅は歴史性を残していくことが個性になるのではないか。
- ・デザイン全体での調整は必要だが、少なくとも部分保存は考えられないだろうか。逆に部分保存を前提に全体のコンセプトを考えることはできないのだろうか。
- ・思想、また部分活用といった形で検討していくのがよいと思う。
- ・現駅舎は自由通路と橋上駅化の事業に支障する建物であり、現状のまま保存することはないと思う。
考え方や思想を継承しながら新しい歴史を作っていく方向だと思う。
現駅舎が地域の人々にどういう点で評価されているのかを踏まえた上で、新しいデザインの中に反映させていくべきである。

* 上記「 」部分は委員長によるとりまとめ

デザイン・アドバイザーからの意見（第5回検討委員会）

- ・より機能的かつ安全であり、ユニバーサルデザインに配慮した空間をいかに作るのかがデザインである。デザインが良いということは、使い勝手も良いということを基本に考える必要がある。
- ・部分保存になると、よほど価値があるものでないと、部分を切り取ってどこかに配置するというのでは非常に変な形になってしまう。
- ・形状や素材として新しいデザインに取り込むことについては可能性がある。
- ・駅舎の保存については、まず一番に考えなければいけないのが何を残すのかということだと思う。それは、形なのか、思想なのか、歴史なのかといったように色々あり、先程の意見を聞いていると思想だと思う。
- ・部分的に残すシミュレーションをしたが、どの位置に配置しても非常に違和感があり、単体だけ配置すると背後が違うのため浮いたイメージになってしまう。
- ・部分的に残すのであれば、北口の公園に東屋のような形で残せるのではないかと思う。
- ・現状のまま保存するのが良いのかという問題がある。資料にあるように駅ができた当初の写真のような状態ならばいいが、現状では厚い塗装が塗られ偽木のような状態になっており、それを街のシンボルとして残していいものなのかという問題がある。



現駅舎の取扱い

- ・「写真、模型等による記録保存」、「デザイン要素として、新駅舎のコンセプトや細部（ディテール）意匠等に反映させる」ことを基本に検討を行い、具体化を図っていく。

保存・活用方向の具体化

- ・今後、駅舎や自由通路の詳細設計において、全体イメージとの整合を図りつつ、デザイン等への反映を具体化していく。

JR 大月駅駅舎 昭和初期撮影（市制 50 周年記念誌より）



1) 現駅舎の活用・保存方法の比較検討

【駅舎の現況（市民からの視点）】
 ・昭和3年からの歴史を持つ山小屋（ログハウス）風の駅舎（待合室）
 ・市民にとっては、長年使用した馴染みある駅舎

【駅舎の現況（来街者からの視点）】
 ・大月のイメージ（歴史的街道の宿場町）とのギャップ
 *ただし、登山客にとっては山小屋のイメージ

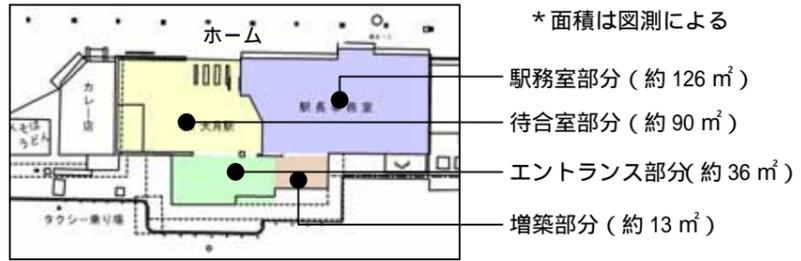
【駅舎の現況（保存状態）】
 ・関東の駅百選 に選定されている（1997年選定）
 ・完成時から現時点まで保存を意識して利用されている駅ではなく、増築・改築（開口部の新設や駅務室部分の増築など）を繰り返しており、良好な保存状態とはいえない状態（建築物としての歴史（客観）的な評価は特にない）
 *木材には厚い塗装が塗られ、質感が薄まっている

【前提条件】
 現位置での保存は駅舎・自由通路・駅広整備への支障から不可能
 建築物としての保存には、構造・法規的な検査・確認が必要
 東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）所有の駅舎

関東の駅百選：
 関東運輸局管内の鉄道の駅を対象に、『あなたの自慢の駅を教えてください』をキャッチコピーとして、街の顔、シンボルとなる駅を広く公募したところ合計 343 駅の応募があり、「駅百選・選考委員会」（委員長：藤井弥太郎慶応大学教授）において平成9～12年度に渡って選定された。

【市民要望】
 「現駅舎の保存・活用」を望む意見と「駅周辺の一新」を望む両極の意見がみられる。

【保存・活用方法】
 歴史性や機能性、保存に要するコスト等の総合的な面からの判断が必要になる。（下表参照）



活用・保存方法			評価項目			総合評価
			歴史性	用途・機能性	コスト	
完全保存	移築	・駅前広場内に移築 例) 休憩所、東屋、展示室 等	原形保存のため地域資源の保存として評価は高い	休憩所として東屋、展示室などとして活用が可能 構造的な耐久性や法規的確認が必要	× 移築費や維持管理費、必要に応じた補強費等が必要	× 移築スペース・配置とコストに課題が残る 駅舎全体イメージとの調整が必要
		・駅周辺の公園等に移築 例) 休憩所、東屋、展示室 等	原形保存のため地域資源の保存として評価は高い	休憩所として東屋、展示室などとして活用が可能 構造的な耐久性や法規的確認が必要	× 移築費や維持管理費、必要に応じた補強費等が必要	× 移築スペース・配置とコストに課題が残る 駅舎全体イメージとの調整が必要
部分保存	移築（部分）	・駅の前面部分（ファサード部分）のみ保存 例) ゲート、ランドマーク 等	部分的ではあるが、原形保存のため比較的评价は高い	× 用途や機能性としての価値は低い	移築費や維持管理費、必要に応じた補強費等が必要	位置や保存部分等について要検討 駅舎全体イメージとの調整が必要
材料保存	部材の活用	・解体し、現駅舎の木材（丸太）等使用可能な部材を加工して別用途として使用 例) ベンチ、サイン 等	地域住民など限られた人のみが知っている特殊性が高い	新たな加工品として利用	× 部材への加工コストにあわせ、既製品でないためコスト増になる	加工物により、コスト増 *市内では猿橋の架け替え時に実施した経緯あり
デザイン要素	デザイン要素として活用	・デザインコンセプトや細部（ディテール）意匠等に要素を活用 例) 屋根などの形状 等	地域住民など限られた人のみが知っている特殊性が高い	× 用途や機能性としての価値は低い	設計の詳細検討段階で調整が可能	今後の設計の具体化にあたり、反映が可能 駅舎全体イメージとの調整が必要
		・材質を活用 例) 新駅舎の待合室の内装をログハウス風の内装とする 等	× 意匠により左右される	用途や機能性への付加価値的な位置づけ（内装を木材にすることによる温もり演出など）	設計の詳細検討段階で調整が可能	駅舎全体のイメージとの整合が必要
記録保存	記録	・写真・模型 例) 写真、模型 等	新駅に駅舎の変遷を示す展示などが可能	展示品等として活用可能	他の方法よりも比較的コストで可能	記録媒体については、要検討



■：評価の高い項目 ■：比較的评价の高い項目 ×：評価の低い項目

7. 市民アンケート

とりまとめと今後の検討課題

検討委員会では事業計画に対する市民参加と情報公開の観点から、市民のニーズや意見を把握・反映させる方法として「市民アンケート」を実施した。

以下に検討委員会における主要意見ととりまとめを示す。

検討委員会における主要意見

- ・市民の理解と意向は非常に重要になるため、市民の意見を反映させる方法を検討する必要がある。
- ・地元説明会を他地区でも実施して欲しい。
- ・本計画を市民に周知させることは大切である。
- ・アンケートの集計・分析を配慮して行って欲しい。
- ・アンケート結果からみて、市民は事業に対して不安を持っているように思う。
- ・自由意見で商業施設に関する意見が多いが、商店の将来的な動向を分かっている範囲で教えて欲しい。

アンケート調査の結果と計画案の整合が必要である。

市民からの意見抽出や参加に関しては、様々な方法があるため、事務局からどの程度のことが可能か案として提出して貰い、実現可能なものについては実施していく事にしたい。



*上記「 」部分は委員長によるとりまとめ

市民ニーズと計画の整合

- ・市民アンケート調査の結果と駅周辺整備計画案の整合を図りつつ、計画の具体化を図っていく。
- ・事業着手に向けての都市計画決定見直しや工事計画等の際し、市民説明などを実施して十分な説明・告知を行っていく。
- ・次年度の検討部会や検討委員会等における議事録などの情報公開を行うとともに、市民参加を積極的に呼びかけていく。

1) 市民アンケート調査結果の概要

現状の大月駅周辺地域に対する評価（歩きやすさ、バリアフリー状況など）・ニーズ・意向等を把握し、整備計画や今後のまちづくりへの反映を図っていくため、アンケート調査を実施した。

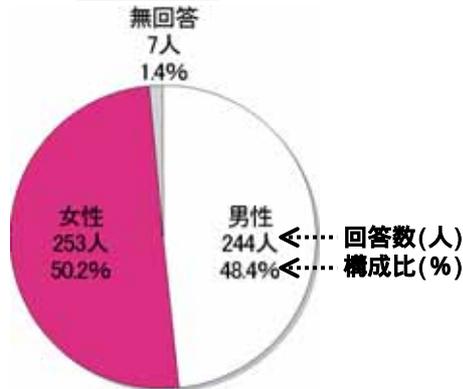
以下に、アンケート結果の概要をまとめる。

調査の概要（調査方法）

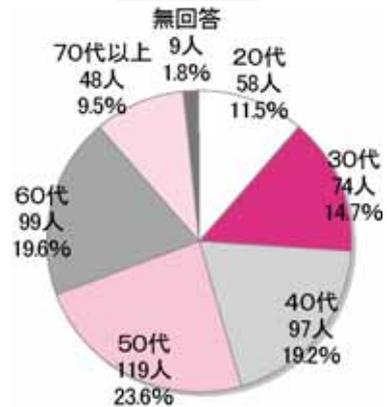
調査日	平成 18 年 7 月～8 月	
調査方法	郵 送	大月駅前手渡し
調査対象者	大月市内に居住する男女(20才以上75才未満)無作為1,000人	大月駅利用者無作為に200名
回収状況	40.6% (406人)	49.0% (98人)
	全 体	42.0% (504人)

回答者属性

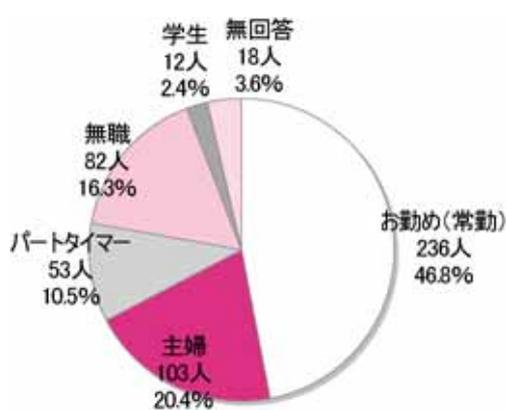
《性 別》



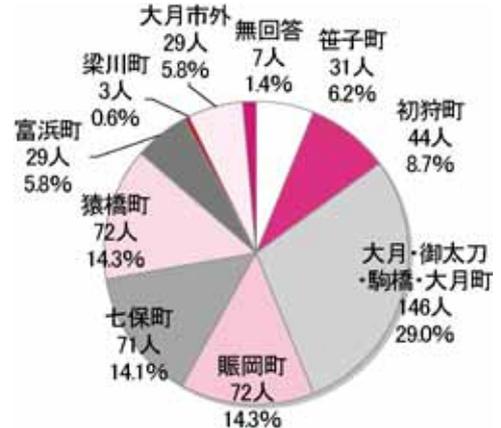
《年 齢》



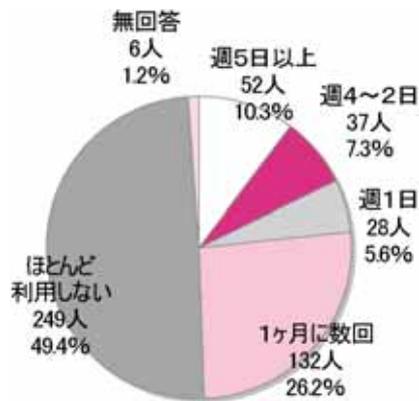
《職 業》



《居住地区》

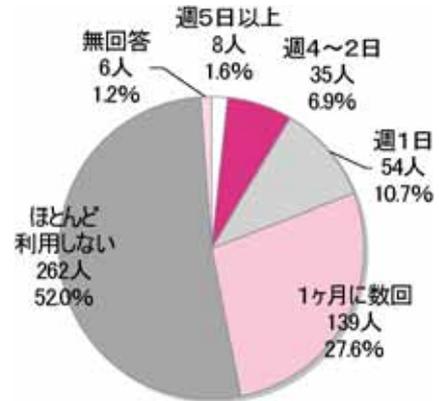


問1 大月駅はどのくらい利用しますか。



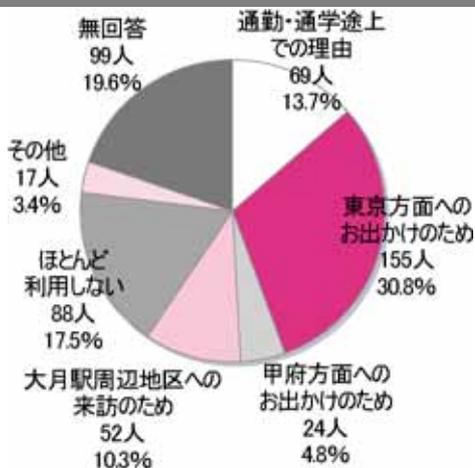
週1日以上利用する人は23.2%に止まり、「ほとんど利用しない」人が半数近い。

問2 大月駅周辺地区（商店街）はどれくらい利用しますか。



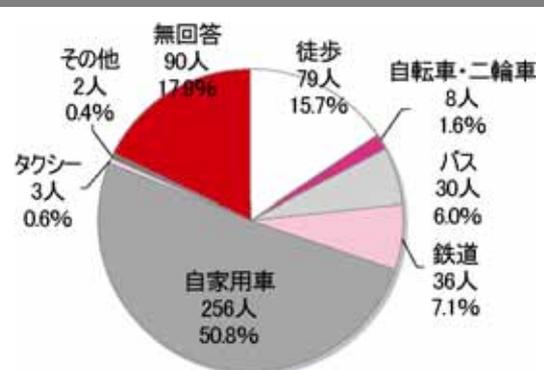
駅周辺地区の商店街を週1日以上利用する人は少なく（19.2%）、問1の駅利用の割合と似ている。

問3 大月駅を利用する主な目的は何ですか。



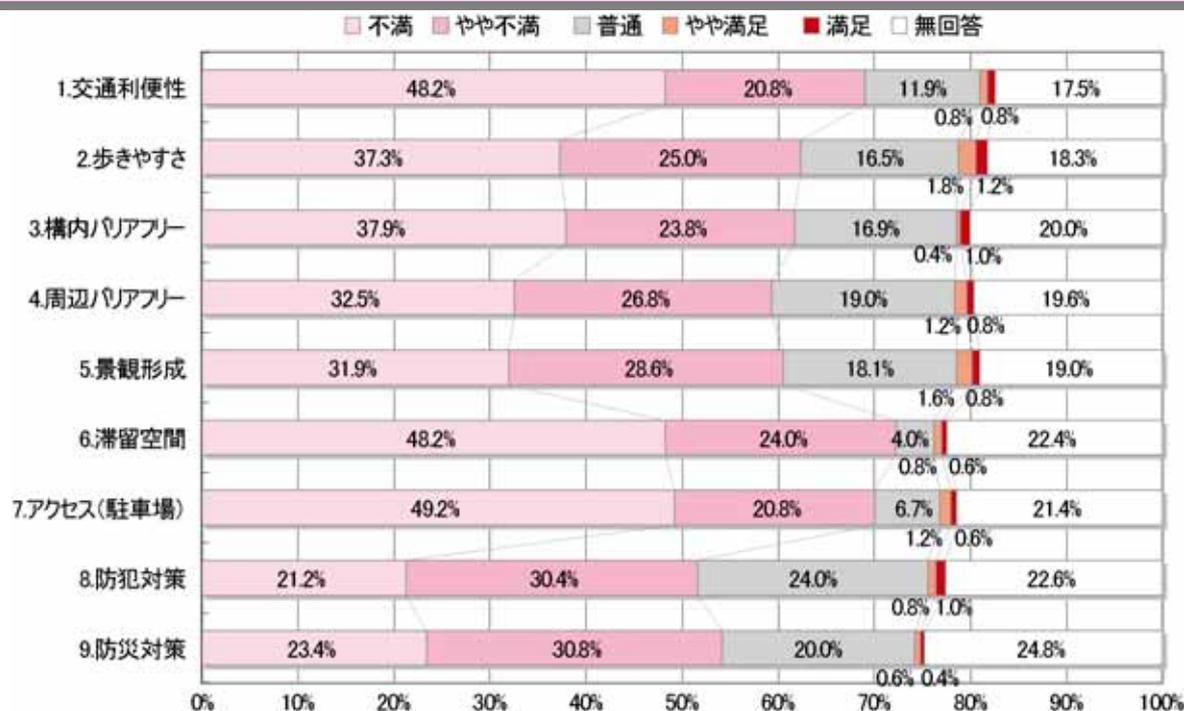
もっとも多いのは「東京方面へのお出かけのため」の30.8%、ついで、「ほとんど利用しない」の17.5%となっている。日常的な利用と思われる「通勤・通学途中の理由」は13.7%に止まっている。

問4 大月駅周辺地区へのアクセス手段は何ですか。



約半数は「自家用車」を利用しており、「バス」、「鉄道」、「タクシー」などの公共交通は合計してもわずか13.7%である。

問5 現在の太月駅周辺地区について、どのように感じられていますか。

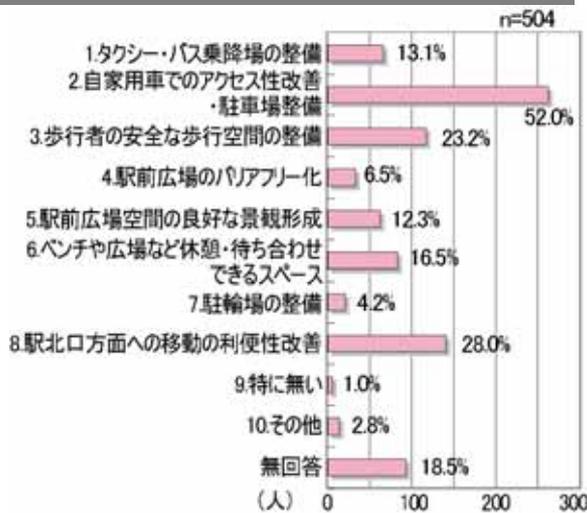


	不満		やや不満		普通		やや満足		満足		無回答	
1.交通利便性	243	48.2%	105	20.8%	60	11.9%	4	0.8%	4	0.8%	88	17.5%
2.歩きやすさ	188	37.3%	126	25.0%	83	16.5%	9	1.8%	6	1.2%	92	18.3%
3.構内バリアフリー	191	37.9%	120	23.8%	85	16.9%	2	0.4%	5	1.0%	101	20.0%
4.周辺バリアフリー	164	32.5%	135	26.8%	96	19.0%	6	1.2%	4	0.8%	99	19.6%
5.景観形成	161	31.9%	144	28.6%	91	18.1%	8	1.6%	4	0.8%	96	19.0%
6.滞留空間	243	48.2%	121	24.0%	20	4.0%	4	0.8%	3	0.6%	113	22.4%
7.アクセス(駐車場)	248	49.2%	105	20.8%	34	6.7%	6	1.2%	3	0.6%	108	21.4%
8.防犯対策	107	21.2%	153	30.4%	121	24.0%	4	0.8%	5	1.0%	114	22.6%
9.防災対策	118	23.4%	155	30.8%	101	20.0%	3	0.6%	2	0.4%	125	24.8%

全体的に、「不満」、「やや不満」がかなりの割合を占め、「やや満足」「満足」の割合は僅少となっており、駅及び駅周辺地区の利用しやすさや快適さに対する評価が低い。

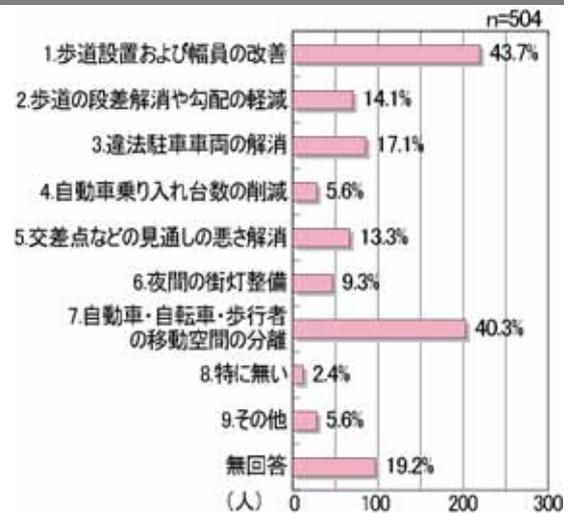
特に不満の多い項目は、「7.駅前商店街へのアクセスの利便性」、「6.駅前広場の滞留空間としての整備状況」、「1.駅の交通施設の利便性」である。

問6 大月駅の利用環境について、特に改善・整備すべき項目（2つ選択）



特に多いのが「自家用車でのアクセス改善・駐車場整備」で、約半数の人が要望している。その他では「駅北口方面への移動の利便性改善」や「歩行者の安全な歩行空間の整備」が多い。

問7 大月駅周辺地区の道路交通環境について、特に改善・整備すべき項目（2つ選択）



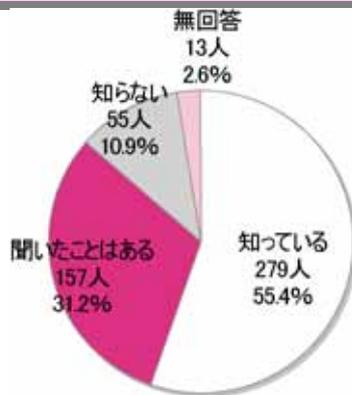
「歩道設置および幅員の改善」と「自動車・自転車・歩行者の移動空間の分離」への要望が圧倒的に多く、基本的な歩行環境の整備が求められている。

問8 大月駅周辺地区が将来どのような地区になればいいと思いますか。（3つ選択）



「活気ある商店街を中心とした地区」や「市の顔として個性・特色豊かな地区」など、市の玄関口の商店街として活気と個性が求められていると同時に、「高齢者や障害者にも快適な地区」を望む人が多い。また、「鉄道やバス、タクシーなどの交通機能が充実した地区」に見られるように、自家用車以外の公共交通の充実も求められている。

問9 現在、大月駅周辺の整備について検討がすすめられていることはご存じでしたか。



「知っている」あるいは「聞いたことはある」が86.6%となっており、検討が進められていることが概ね認知されている。

その他 大月駅周辺整備について、何か要望・ご意見がありましたらご記入ください。(自由回答 記述式)

<自由回答の主要意見の分類と概要>

0 全体(267件)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の約半数の人が自由回答に応じた。回答を大きく分類すると、駅北の活用、駅広と交通アクセス、駅舎、欲しい施設・サービス、まちづくりのイメージ、に整理される。
1 駅北の活用について(31件)	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設、オフィスビル、病院等への活用提案が見られる。
2 駅広と交通アクセスについて(92件)	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場、ロータリー、道路拡幅など、駅周辺への自家用車でのアクセス性向上が求められており、特に、駐車場の要望がかなり多くなっている。また、歩行者空間の確保や人の集まる駅前づくりなどの意見も見られる。
3 駅舎について(33件)	<ul style="list-style-type: none"> ・駅ビル建設を求める声が多く見られるが、現在の駅舎景観の維持を望む声も少なくない。 ・駅設備としてはエスカレーターやエレベーター設置、また、南北自由通路実現への要望も見られる。
4 欲しい施設・サービスについて(商業等)(47件)	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺や駅ビルに商業施設が欲しいという意見が多く見られる。 ・他には、スポーツ・娯楽施設、病院、交番等の意見が見られる。
5 まちづくりのイメージ(29件)	<ul style="list-style-type: none"> ・大月の歴史や特性を活かした魅力ある、活気ある、誇れるようなまちづくりを望む意見が見られる。 ・近代的なまちづくりを望む意見も少数見られる。
6 その他(35件)	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺整備に対する慎重な意見も少なくない。

2) 市民アンケート調査結果にみる市民ニーズと駅周辺整備計画案の方向性について
アンケート結果

(整備計画との関連度合)

(市民ニーズからの関連度合)

アンケート結果		整備計画案	
1 交通利便性	満足度	不満・やや不満 83.6%	満足・やや満足 2.0%
	利用環境	第1位 52.0%	自家用車でのアクセス性改善・駐車場整備
	道路交通環境	第2位 28.0%	駅北口方面への移動の利便性改善
	将来像	第3位 17.1%	違法駐車車両の解消
	自由回答	第2位 42.1%	公共交通機能が充実した地区
2 歩きやすさ・バリアフリー	満足度	不満・やや不満 76.2%	満足・やや満足 3.7%
	利用環境	第1位 43.7%	歩道の設置や幅員の改善
	道路交通環境	第2位 40.3%	自動車・自転車・歩行者の移動空間の分離
	将来像	第3位 23.2%	歩行者の安全な歩行空間の確保
	自由回答	第4位 38.1%	高齢者や障害者にも快適な地区
3 景観形成	満足度	不満・やや不満 74.8%	満足・やや満足 3.0%
	利用環境	第6位 12.3%	駅前広場の良好な景観形成
	将来像	第3位 40.5%	市の顔として個性・特性豊かな地区
	自由回答	第5位 26.0%	良好な景観が形成された地区
4 滞留空間	満足度	不満・やや不満 93.0%	満足・やや満足 1.8%
	利用環境	第4位 16.5%	休憩・待ち合わせができるスペースの整備
	将来像	第5位 26.0%	公園や広場が多く緑豊かな地区
	自由回答		公園などの人々が交流できるスペースの確保
5 駅前商店街へのアクセス	満足度	不満・やや不満 89.1%	満足・やや満足 2.3%
	利用環境	第1位 52.0%	自家用車でのアクセス性改善・駐車場の整備
	将来像	第1位 57.5%	商店街を中心とした地区
	自由回答		商店街の無料駐車場整備
6 防犯・防災対策	満足度	不満・やや不満 66.6%	満足・やや満足 2.3%
	利用環境	第6位 9.3%	夜間の街灯整備
	将来像	第7位 22.0%	夜でも安全に歩ける地区
	自由回答	第8位 11.3%	災害に強い地区
	自由回答		交番の駅前設置や防犯カメラの設置
自由回答	駅北の活用	工場跡地への施設として、商業施設やオフィスビル、病院を希望	×
	駅舎関連	駅ビルやエスカレーター、エレベーターの整備	○
	駅周辺への導入施設・機能	駅ビル内への魅力的なテナントの誘致	×
		現駅舎・保存や何らかの方法での活用、イメージでの存続を	○
		特に多いのが、駐車場の整備	○
		次に、ショッピングセンター等の商業施設や飲食施設	×
	その他	その他には、スポーツ・娯楽施設・病院・交番等	×
		既存の空き店舗対策の実施	○
		特に多いのが、事業の早期完成を望む意見	○
		事業の必要性や財政面での配慮についての意見	○
自由回答		検討にあたって、若者の意見やソフト対策の充実を望む	○
		南北自由通路の設置	○
		橋上駅舎の整備	○
		南口駅前広場の拡張	○
		北口駅前広場の新設	○
		電線共同溝による無電柱化の推進	○
		北口駅前公園の整備	○
		駅周辺の道路と歩道の整備	○
		市営駐車場の設置	○
		駅前広場内への公衆用トイレの整備	○
		北口駅前広場への歩行者用道路の整備	○
		駅前広場内への観光案内板の設置	○
		駅前広場内へのシェルター(屋根)の設置	○
		駅前広場内への貯水槽の設置	○
		駅前広場内への防犯カメラの設置	○
		ひろさと村等の空き店舗対策の充実	○
		駅周辺踏切道の安全対策の実施	○
		駅前景観の整備(ファサード等)	○
		駅周辺の登山路の整備	×

○協議事項

市民ニーズと整備計画との関連度合いの確認と特に ○と×の項目・事業についての対応

項 目	とりまとめと今後の検討課題	備 考
5. 賑わいのある商業地づくり	<p>賑わいづくりの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賑わいづくりに資する事業メニューやソフト方策については、引き続き商工会や大商協等と協議を行い、来年度の検討委員会においても協議を行う。 <p>ハード整備とソフト方策の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備のプログラムに配慮しつつ、ソフトメニューの具体化を早急に詰めていく必要がある。 	* 関連機関との連携による賑わいづくりの具体化を図っていく
6. 現駅舎の取扱い	<p>現駅舎の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「写真、模型等による記録保存」、「デザイン要素として、新駅舎のコンセプトや細部(ディテール)意匠等に反映させる」ことを基本に検討を行い、具体化を図っていく。 <p>保存・活用方向の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、駅舎や自由通路の詳細設計において、全体イメージとの整合を図りつつ、デザイン等への反映を具体化していく。 	
7. 市民アンケート	<p>市民ニーズと計画の整合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート調査の結果と駅周辺整備計画案の整合を図りつつ、計画の具体化を図っていく。 ・事業着手に向けての都市計画決定見直しや工事計画等に際し、市民説明などを実施して十分な説明・告知を行っていく。 ・次年度の検討部会や検討委員会等における議事録などの情報公開を行うとともに、市民参加を積極的に呼びかけていく。 	
8. その他	<p>事業費への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の具体化においては、事業費に配慮しつつ実現を図っていく。 <p>情報公開(市民参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、計画の具体化や検討の進捗状況に合わせ市民への情報公開を行うとともに、積極的な住民参加を呼びかけ計画内容の周知と合意形成を図っていく。 <p>鉄道駅間の乗換え利便性への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 大月駅と富士急行大月駅間における乗換え利便性に配慮して、事業者との調整を行う。 ・また、改修を予定している富士急行大月駅については、駅周辺地区における全体的なデザインとの統一・調整を図っていく。 	

【参考資料】大月駅周辺整備検討委員会 議事録

【第1回検討委員会】

日時：平成18年4月20日（木）午後2時～ 場所：大月市役所 3階委員会室

- 議題
- 1) 大月駅周辺整備事業の経緯及び基本構想について
 - 2) 今後の事業計画策定の進め方について
 - 3) 検討テーマにもとづく協議・検討
 - 4) その他

【第2回検討委員会】

日時：平成18年5月31日（水）午後2時～ 場所：大月市民会館 4階視聴覚室

- 議題
- 1) 第1回検討委員会議事録の承認について
 - 2) 第1回検討委員会での要望意見等について
 - 3) 骨格整備計画とデザイン方針+設計の条件について
 - 4) その他

【第3回検討委員会】

日時：平成18年7月19日（水）午後2時～ 場所：大月市民会館 4階視聴覚室

- 議題
- 1) 第2回検討委員会議事録の承認について
 - 2) 第2回検討委員会での要望意見等について
 - 3) 駅舎及び自由通路の基本設計案について
 - 4) その他

【第4回検討委員会】

日時：平成18年9月25日（月）午後2時～ 場所：大月市総合福祉センター 6階多目的ホール

- 議題
- 1) 第3回検討委員会議事録の承認について
 - 2) 市民アンケート調査結果と整備計画案の方向性について
 - 3) 駅周辺地区の景観形成の検討プログラムについて
 - 4) その他

【第5回検討委員会】

日時：平成18年11月13日（月）午後1時～ 場所：大月市総合福祉センター 6階多目的ホール

- 議題
- 1) 第4回検討委員会議事録の承認について
 - 2) 駅周辺地区のまちなみ景観の基本コンセプトと今後の推進体制について
 - 3) 現駅舎の取扱いについて
 - 4) 整備プログラムと実現方策...設計の内容確認（まちづくり交付金本要望の内容について）
 - 5) その他

【第6回検討委員会】

日時：平成18年12月6日（水）午後2時～ 場所：大月市民会館 4階視聴覚室

- 議題
- 1) 第5回検討委員会議事録の承認について
 - 2) 主要検討課題に対すとりまとめについて
 - 3) その他

【第1回大月駅周辺整備検討委員会のとりまとめ】

項目	主な意見内容
検討委員会の位置づけ・今後の検討内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいに関する事業メニューとして委員会の中で議論を行うことは良いが、事業計画の予算枠内への追加の必要性については、議論・検討を行っていく。 ・早急に検討を進めていく必要がある事項は、設置要綱 第2条(1)～(3)の部分であり、それらを各委員の立場から議論を行っていく。それらを踏まえて、計画案の策定にあたっては市民への説明などを行っていくという理解である。 ・商店街としては以前の計画案が凍結した際は、非常に残念であった。今回の計画見直しにあたっては、地権者等の意見を十分に聞いて進めて欲しい。
バリアフリーについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインやバリアフリーは非常に重要になるため、駅舎や公共空間において、具体的な情報・計画を提出してもらいたい。 ・橋上駅舎化された後の大月駅についてもEVは各ホームに設置することになる。ESについては、利用客数等を試算、検討したうえで上り下り方向の2基設置か1基のみになるか等は、今後検討を進めていくことになる。
駅前広場整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の駅前は非常に安全ではないため、計画にあたっては第一に来街者や地域住民の安全確保をお願いしたい。 ・バスの運行については、北口との分担・使い方もあるため、次回にレイアウト案を提出してもらい、詰めた議論を行う。 ・安全性については、道路の拡幅・歩道設置によってどの程度改善されるのか把握できる資料を次回に提出して欲しい。
駅周辺における賑わい・特色について	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の大月駅は、電車を降りて駅を出て直ぐに帰ってしまう利用者が多いと思うので、何か駅前広場で人々が立ち止まり、賑わいを演出する工夫をお願いしたい。 ・まちづくりとして駅を考える必要があり、玄関口としての駅で来街者を立ち止まらせるアイデアを各委員や事務局から色々出した上で検討を行い、設計やデザインに反映させていければと思う。 ・大月は自然に恵まれた地域であるが、現状の駅前は自然を感じることができる空間ではないため、地域の特徴を感じさせる駅前空間を計画して欲しい。 ・今後具体的に出てくると思うが、駅舎、駅空間等について鉄道事業者からの考え方を委員会としてどのように調整していくかが大切になる。 ・魅力的な駅空間というのは非常に難しいため、デザイン・アドバイザーからのアイデア等を基に各委員から意見を積極的に出して頂き、議論を行ってほしい。
情報公開について	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の理解と意向は非常に重要になるため、市民の意見を反映させる方法を検討する必要がある。 ・市民からの意見抽出や参加に関しては、様々な方法があるため、次回に事務局からどの程度の方が可能か案として提出して貰い、実現可能なものについては実施していく事にしたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な整備が行われることになるため、工事期間中の安全性や不便さへの対応をお願いしたい。 ・事業費約65億円の大規模事業のため、普段大月駅を使わない大月市民にとっても誇れるような大月駅を実現することが大切である。 ・JRの駅舎を橋上化するに際して、富士急行との接続に関して配慮して欲しい。また、今後鉄道事業者の個別事業が出てくると思うので十分に整合させて進めて欲しい。

第1回 大月駅周辺整備検討委員会

議事録

日 時：平成 18 年 4 月 20 日（木）

14:00～16:00

場 所：大月市役所 3 階委員会室

1. 開会

2. 委嘱状交付式

3. 市長あいさつ

【西室市長】

- ・大変お忙しい中、大月駅周辺整備検討委員会に出席いただきありがとうございます。
- ・大月駅周辺整備事業に関しては、一昨年に財政面等の問題から、一時凍結していたが、大月市の将来発展に向けた事業の再構築を市政の最も重要な位置づけとして計画の見直しを進めてきた。
- ・幸いにも、駅周辺の地権者や鉄道事業者等の関係者からも早期事業化についての協力を頂いており、最大の課題であった財政面の問題についても積極的な見直しにより、当初計画案から半分程度の事業費での見通しが立ったため、本検討委員会の設立に至った。
- ・先程、委嘱させて頂いた委員の皆様方には、各所属からの様々な知見に基づく活発な議論を頂き、関係者合意の下、平成 19 年度からの事業化を目標に進めて頂きたい。
- ・検討委員会にあわせて、庁内においても関係課長等による庁内推進委員会を立ち上げている。
- ・大月市の魅力が活かされ、市民が誇れるような大月駅周辺整備となるよう支援・協力をお願いしたい。

4. 第1回検討委員会

(1)大月駅周辺整備検討委員会設置要綱について説明（資料1）

(2)委員長及び副委員長の選出（資料2）

【事務局】

- ・委員長、副委員長の選定については、設置要綱に従い、委員のうちから互選したい。

【委員】

- ・事務局の方で、腹案があれば聞かせて欲しい。

【事務局】

- ・事務局の腹案でよろしいか。

【全委員】

- ・異議なし。

【事務局】

- ・事務局の提案としては、委員長に山梨大学大学院教授の西井 和夫先生。副委員長に大月市商工会の平井 誉会長を提案させて頂きたい。

【全委員】

- ・異議なし。

【事務局】

- ・それでは、委員長、副委員長より挨拶をお願いし、協議を進めて頂きたい。

【委員長】

- ・市長の挨拶にあったように、駅周辺整備にあたっては、これまで大変な苦勞があったが、地域住民や関係者等の熱意により、本検討委員会が改めて設置された。
- ・スケジュール的には、非常に短期決戦になるわけだが、より良い事業計画の策定に向けて協議を進めていきたい。
- ・委員の構成からも、大月市のことを普段からご存知の方々が選任されているため、様々な

ご意見を頂いて、整備計画案をまとめていきたい。

【副委員長】

- ・委員長を補佐し、委員の皆様のご協力を頂く中で、検討委員会をスムーズに進めていきたい。

(3)協議

【委員長】

- ・資料を一括して事務局から説明してもらい、意見を頂きたいと思う。

【事務局】

(資料3：大月駅周辺整備事業の実現に向けて / 全体構想図 資料4：今後の事業計画策定の進め方について 説明)

【委員長】

- ・これまでの経緯や全体構想図についての説明であったが、何か質問や意見はあるか。

【委員】

- ・障害者福祉会の代表として、事業計画作成の段階から委員会に参加させて頂くことに感謝している。
- ・全体構想図(資料3)にある自由通路のバリアフリー対応という内容について、次回の委員会で構わないので細部の説明をお願いしたい。
- ・質問として、自由通路のエスカレーター(以下ES)は、南口と北口両側に設置されるのか。

【事務局】

- ・自由通路の南口ではESを東西各方向に2箇所とエレベーター(以下EV)を1基設置し、北口については、東京方にES1基、EV1基の設置を予定している。
- ・駅舎内における詳細な検討はこれからになるが、現段階で鉄道事業者の方から基本的な方向があればお願いしたい。

【委員】

- ・バリアフリー対応については、交通バリアフリー法を受けて2010年度を目標年次として各駅におけるEV、ESの設置や段差の解消等を進めている。
- ・橋上駅舎化された後の大月駅についてもEVは各ホームに設置することになる。ESについては、利用客数等を試算、検討したうえで上り下り方向の2基設置か1基のみになるか等は、今後検討を進めていくことになるが、全ての人が使いやすい駅を実現させたいと考えている。

【委員長】

- ・他に何かあるか。

【委員】

- ・本委員会の役割として、約65億円の事業費という枠内でこういった事業を行うかを検討していくのか。または、事業費の拡大・縮小を含めて検討を行うのか。

【委員長】

- ・委員会の設置要綱 第2条について事務局から補足説明という形でお願いしたい。

【事務局】

- ・資料5の検討課題にも挙げているが、現計画案の事業メニューとして商業活性化、賑わいづくりに資する事業メニューが不足しており、本委員会の中から意見を頂きたいと考えている。このことと言えば事業メニューが増え、事業費が増加することになる。
- ・ただし、市としては、財政的にも事業費65億円というのを上限にしたい思いはある。

【委員長】

- ・賑わいに関する事業メニューとして委員会の中で議論を行うことは良いが、事業計画の予算枠内への追加の必要性については、議論・検討を行っていくということだと思う。

【委員】

- ・今回の事業は大規模なプロジェクトであり、重要な位置づけに置かれている。今回の事業について市民の合意・理解もまだであり、計画への反対が出てくる可能性もあるため、極論するならば、事業実施の是非についても議論の余地があるのか。

【委員長】

- ・設置要綱 第2条(4)にあるように、事業の推進に必要な事項についての検討は行うとあり、

指摘されているような事業の妥当性や市民への説明等については、この中に含まれてくると思う。

- ・ただし、スケジュール的な問題もあるため、早急に検討を進めていく必要がある事項は、設置要綱 第2条(1)～(3)の部分であり、それらを各委員の立場から議論を行っていく。
- ・それらを踏まえて、計画案の策定にあたっては市民への説明などを行っていくという理解である。
- ・資料4には事業計画策定の進め方として、デザインの専門家をアドバイザーとして次回委員会から出席していただき、駅舎、自由通路、景観等について意見を頂くという事務局からの提案になっている。
- ・また、本検討委員会が1年間で終わるものではなく、事業期間の5年間のなかで継続的に事業のフォローアップを続けていくということである。
- ・これらの点について、何かあるか。

【委員】

- ・デザイン・アドバイザーの委嘱というのは良いと思うが、どのような方を委嘱するのかを経緯とともに教えて欲しい。

【事務局】

- ・委嘱予定の方は2名おり、本人の内諾は得られているが、所属先の了解を得る手続きがあるため、現段階では氏名等の公表は避けさせてもらいたい。
- ・魅力のあるまちなみとしてより良いデザイン、意匠を実現するために、2名の経歴等を踏まえ、アドバイザーとしての委嘱をお願いすることとした。
- ・アドバイザーを委嘱することで、本委員会の中での議論を具体的設計業務に反映させていくことが可能になると考えている。

【委員長】

- ・設計・意匠が専門の方と、カラーコーディネート・景観が専門の大学の方と聞いている。
- ・資料4の大まかなスケジュールや進め方について他に何か意見は無いか。
- ・それでは、具体的な協議事項として、初めに事務局より資料5の説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料5：基本方針と検討課題 説明)

【委員】

- ・様々な分野から非常に良い委員が委嘱されていると思うが、是非市長にも協議に参加してもらいながら進めて欲しい。

【委員長】

- ・退席される委員がいるため、先に意見ををお願いしたい。

【委員】

- ・商店街としては以前の計画案が凍結した際は、非常に残念であった。今回の計画見直しにあたっては、地権者等の意見を十分に聞いて進めて欲しい。

【委員長】

- ・先程意見があったようにユニバーサルデザインやバリアフリーは非常に重要になるため、駅舎や公共空間において、具体的な情報・計画を提出してもらいたいと思う。
- ・他に何かあるか。

【委員】

- ・北口広場と北口アクセス線の設置にあたって、大月駅裏通線は今後の拡幅等が予定されているのか。

【事務局】

- ・凍結した前計画では13mに拡幅を予定していたが、今回の計画では道路拡幅工事は予定していない。
- ・ただし、工場跡地における民間開発の誘導などのために将来的に必要性が出てきた際には、13mへの拡幅または、都市計画決定されている8mへの拡幅が事業化される流れになると思う。

【委員】

- ・先程、EV、ESの設置について話があったが、設置後の維持管理についてはどのように行われるのか。

- ・一時駐車場というのは、どこに予定されているのか。

【事務局】

- ・現計画では駅舎内に設置されるEV・ESの維持管理は鉄道事業者負担になる。自由通路に設置されるEV・ESは大月市が負担をすることになる。
- ・一時駐車場は南口広場内に市営の有料コインパーキングとして設置を予定している。

【委員】

- ・バス乗降はどの位置で行うのか。また、普段の待機場所はどこになるのか。
- ・現状の駅前是非常に安全ではないため、計画にあたっては第一に来街者や地域住民の安全確保をお願いしたい。

【事務局】

- ・次回の検討テーマである骨格整備計画に関連して、安全面への配慮をしつつ、複数の駅前広場レイアウト案を作成し、委員会への提出を予定している。
- ・バス乗降場としては3バス（箇所）を確保したいが、現在のような形での停留所は予定していない。

【委員】

- ・現在のように駅前にバスが滞留することは無いのか。

【事務局】

- ・各バス乗降場で待機することは出てくると思うが、別空間として専用の待機スペースは予定していない。

【委員長】

- ・バスの運行については、北口との分担・使い方もあるため、次回にレイアウト案を提出してもらい、詰めた議論を行いたいと思う。

【事務局】

- ・駅前広場の施設整備とバリアフリーへの対応についても、複数案を作成し、次回の検討委員会に提出したいと考えている。
- ・資料5に挙げている交流広場については、現在JCが開催している青空市場といった利用を常時行えるような空間確保を考えている。

【委員長】

- ・先程指摘のあった安全性については、道路の拡幅・歩道設置によってどの程度改善されるのか把握できる資料を次回に提出して欲しい。

【委員】

- ・現状の大月駅は、電車を降りて駅を出て直ぐに帰ってしまう利用者が多いと思うので、何か駅前広場で人々が立ち止まり、賑わいを演出する工夫をお願いしたい。

【委員長】

- ・まちづくりとして駅を考える必要があり、玄関口としての駅で来街者を立ち止まらせるアイデアを各委員や事務局から色々出した上で検討を行い、設計やデザインに反映させていければと思う。
- ・他に何か意見はあるか。

【委員】

- ・基本的なこととして、構想図を見ると広場整備や道路拡幅により移動する住民が出てくると思うが、了承は得られているのか。

【事務局】

- ・基本的な了承は得られている。

【委員】

- ・大規模な整備が行われることになるが、工事期間中の安全性や不便さへの対応はどのように考えているのか。

【委員】

- ・駅や鉄道施設部の施工は鉄道事業者側で施工を行うことになると思うが、これまでの経験を活かした十分な工事計画を立てて進めていきたいと思う。
- ・工事段階では利用客に一部不便を掛ける場面が出ることもあると思うが、その際には事前の説明、案内を十分に行って進めていく。

【事務局】

・最小限の不便は避けられないと思うが、市としても最大限に配慮し進めて行きたい。

【委員長】

・特に安全面に十分配慮した工事施工をお願いしたい。

【委員】

- ・大月は自然に恵まれた地域であるが、現状の駅前は自然を感じることができる空間ではないため、地域の特徴を感じさせる駅前空間を計画して欲しい。
- ・事業費約 65 億円の大規模事業のため、普段大月駅を使わない大月市民にとっても誇れるような大月駅を実現することが大切である。
- ・JR の駅舎を橋上化するに際して、富士急行との接続に関して配慮して欲しい。また、今後 JR と富士急行の個別事業が出てくると思うので十分に整合させて進めて欲しい。

【委員長】

- ・今後具体的に出てくると思うが、駅舎、駅空間等について鉄道事業者からの考え方を委員会としてどのように調整していくかが大切になる。
- ・魅力的な駅空間というのは非常に難しいため、デザイン・アドバイザーからのアイデア等を基に各委員から意見を積極的に出して頂き、議論を行っていききたい。

【事務局】

・鉄道の乗換え利便性については、これまでに鉄道事業者と協議を進めてきている。

【委員】

・当然のことながら、より良いものを作って行きたいというスタンスである。具体的な計画案等が出てきた際には協力して進めていきたい。

【委員長】

- ・最後の協議事項として、今後の委員会運営について意見をお願いしたい。
- ・委員会や事業の透明性として、情報公開が重要になるため委員会の傍聴や議事録の公開等を行っていく必要があると思う。市民参加のあり方に関して何か意見があるか。

【委員】

- ・情報公開については、是非行って欲しい。
- ・市民の理解と意向は非常に重要になる。前計画ではワークショップを開催した経緯があるので、時間的な制約があるとは思うが、市民の意見を反映させる方法を検討する必要がある。

【委員長】

- ・並行してワークショップ等を開催するには時間的な問題があると思うが、情報発信として議事録の公開は最低限可能であると思う。
- ・市民からの意見抽出や参加に関しては、様々な方法があるため、次回に事務局からどの程度のことが可能か案として提出して貰い、実現可能なものについては実施していく事にしたい。
- ・次回の日程について事務局からお願いしたい。

【事務局】

・次回は 5/31 (水) 14:00 から市民会館 4 階での開催を予定している。

以 上

【第2回大月駅周辺整備検討委員会のとりまとめ】

項目	主な意見内容
事業の骨格について	<ul style="list-style-type: none"> ・予算に配慮しながら、事業の中で重点的に取り組むべきことを整理する必要があるのではないか。 ・骨格を考えて行く際に、どのような観点から整備を進めていくべきかを様々な立場から意見を述べ合い、委員会として集約していくのが目的であるため、そのように意見・議論を進めて行きたい。 ・予算への配慮も大切だが、駅というものがどういったものであるべきなのかということを考えないといけないのではないか。理想型を色々出した後で、大月として目指す方向性を固める必要があると思う。
大月市の特徴・特性・テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・大月駅は大月市にとって顔の役割を果たすため、広場を大月の特徴である自然との調和を実感できるような駅前広場にしたいのではないか。 ・市の歴史的な流れとして、かつての主要産業である織物関連の古い建物がまだ駅前に残っており、どのように活かしていくのかを考える必要があると思う。 ・デザインを考える際に、物語性やシナリオをつくる必要がある。例えば、機能的な歩行者動線というのは安全性が高いが、心の動線を考えることが非常に重要であり、最近の駅というのは機能的過ぎてストーリーも無くつまらない空間になっている。 ・テーマとしては、自然や季節感、歴史、月、富士山といった要素をいかにして駅の空間やデザイン、施設の中に取り込んでいくかを考えていくことになると思う。 ・「南口広場」「北口広場」「橋上駅舎」「南北自由通路」の4つを個々に考えるのではなく、トータルに考えてデザインしていくことが大切である。 ・駅周辺の現状は山も多いが電線・架線も非常に多く、これらが無くなればもっと素晴らしい景色になるのではないか。 ・眺望や軸線を活かすのは、そこにしかないモノ（景色）ということで、大月市の特徴を出せると思う。
駅前広場レイアウトについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの考え方と広場レイアウトについて整合させて、検討案を詰めて欲しい。 ・北口には用地があるため、北口に一般車駐車場を持っていくなどして、南口は障害者に配慮した計画にして欲しい。 ・駅の利用者にとっての安全性、快適に使える駅や広場整備が第一だと思う。
短時間駐車場の確保について	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では大月駅の使われ方として、一般車の送迎が多いと思うが、計画案では乗降場が2台となっており少ないのではないか。 ・バイパスが開通すると、駅での一般車乗降や駐車場利用者が増えることが予想される。 ・利用者としては一般車乗降スペースをなるべく多くしたい思いがあるが、スペースを増やすとその場で待機してしまう車両が発生するため、そういった待機車両は、短時間駐車場に移動して待機するマナーと誘導が必要だと思う。
賑わいについて	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化と連携させるため、民有地の誘導・活用等についても検討が必要である。 ・関連事業や方策として人が集まった時に行う活動・交流のコンテンツ・ソフト方策などの対応も必要になってくる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回検討委員会から市民の傍聴を行う。 ・議事録を大月市HPで公開する。 ・アンケートにある、市民要望を計画へも反映させて欲しいので、なるべく早く回収して欲しい。

第2回 大月駅周辺整備検討委員会

議事録

日 時：平成 18 年 5 月 31 日（水）

14:00～16:30

場 所：大月市民会館 4階視聴覚室

1. 開 会

2. 委員長挨拶

【委員長】

- ・今回は議題にあるように計画の骨格やデザインがメインになっている。
- ・様々な立場から意見を出して頂きたい。

3. 議 題

(1) 第1回検討委員会議事録の承認について

(2) 第1回検討委員会での要望意見等について

【委員長】

- ・前回の第1回委員会における議事録について事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

（資料説明）

【委員長】

- ・議事録については、後日で構わないので各自で一読していただき、追加・修正等があれば事務局まで連絡することにしたい。
- ・とりまとめ部分については、事務局から詳細に説明して貰いたい。

【事務局】

（資料説明）

- ・市民説明として、6/10・11に1,100世帯を対象にした地元説明会を2日間 3回開催予定である。開催にあたっての文書を広報と一緒に全戸配布する。
- ・ユニバーサルデザインや駅前広場のレイアウト等については、本日提出している資料を基に議論を頂きたい。
- ・情報公開については、議事録を市のホームページに掲載する予定である。また、委員会の了承が頂ければ、次回から市民の傍聴を行いたいと考えている。
- ・JRと富士急行の接続に関しては、位置の変更はあるが、現状と同様の形で乗換え改札を設置予定である。

【委員長】

- ・情報公開ということで、議事録の公開とともに、委員会の傍聴を行いたいということだが、異議等はあるか。

【全委員】

（異議なし）

【委員長】

- ・次回から委員会の傍聴を行うこととする。

(3) 第2回テーマ「骨格整備計画とデザイン方針+設計の条件」について

【委員長】

- ・次に、本日のメインになる議題に入って行きたい。事務局から資料説明をお願いしたい。

【事務局】

（資料説明）

- ・駅前広場のレイアウトについては、「ロータリー型」と「動線分離型」について検討をしており、議論を通じて一定の方向を出して頂ければと思う。
- ・歩道ネットワークやユニバーサルデザインについても意見を頂ければと思う。

【委員長】

- ・骨格整備計画として、駅前広場のレイアウトや、歩行者空間のネットワーク、ユニバーサ

ルデザイン等の資料であったが、何か意見や質問はあるか。

【委員】

・沼津駅の事例が出ているが、バスのロータリーを分けている理由は何があるのか。

【事務局】

・事例として取り上げているが、沼津駅ではバスの発着台数が多いため、ロータリーを分離することになっている。

【委員】

・今回提出されているレイアウト案の内、ロータリー型だとバスの乗降場が1箇所横断歩道を渡る位置にあるため、ユニバーサルデザインの観点からは問題があるのではないか。

【委員長】

・動線分離型の方が、バス乗降場が駅直近に確保されているため、利便性が高いと思う。ロータリー型においても、この位置にバスの乗降場を設置することは可能なのか。

【事務局】

・今回提出している資料としては、2つの広場形態についての検討で、バス乗降場の位置等については、今後詰めていく事項である。

【委員長】

・ユニバーサルデザインの考え方と広場のレイアウトについて整合させて、検討案を詰めて欲しい。

【委員】

・タクシーについては、プールを遠隔配置することを検討しているようだが、バスのプール機能はどのように考えているのか。

【事務局】

・計画では、3つの乗降場の中で運行が可能と考えている。

【委員】

・65億円の事業費ありきで計画を進めることになる、デザイン側への予算が足りなくなる可能性があるため、絞込みが必要ではないか。重点的に取り組むべきことを整理する必要があるのではないか。

・予算的に制限があるため、将来的な第2次、3次計画を見据えて計画を行って欲しい。

・北口には用地があるため、北口に一般車駐車を持っていくなどして、南口は障害者に配慮した計画にして欲しい。

・計画の大枠を決めた上で、部分的な議論を進めて欲しい。

【事務局】

・新聞等にも掲載されているが、構想案では65億円程度を予定している。

・市の財政状況も配慮して、より良い整備を行うためには、絞込みが必要だと考えており、そのような議論についてもお願いしたい。

・それらを踏まえて、H19年度事業着手に向けて事業計画のとりまとめを進めて行きたい。

【委員長】

・これまでの経緯については、第1回で説明を受けており、65億円の事業費についても説明があった。

・今回の議論では広場の形態からどちらが使い勝手が良く、大月市の駅前広場として適しているかという議論やユニバーサルデザインの考え方について議論を行う段階であり、予算の制約について議論を行う必要は無いと思う。

・骨格を考えて行く際に、どのような観点から整備を進めていくべきかを様々な立場から意見を述べ合い、委員会として集約していくのが目的であるため、そのように意見・議論を進めて行きたい。

・更に進むと、それらの意見をどの程度技術的に設計側へ反映させていけるかに検討が進んでいくことになる。

【委員】

・骨格的なことについて議論をすることは当然であると思う。ただし、予算についても配慮しながら進めていかないと、再び事業が凍結しては地元として非常に困る。

・重点的に進めるべき事柄を整理する必要があるのではないか。

・地元としては、前回の計画凍結を経験しており、計画倒れに終わることに非常に危機感が

あるため、予算に配慮して速やかな事業実施をお願いしたい。

【委員】

- ・現状では大月駅の使われ方として、一般車の送迎が多いと思うが、計画案では乗降場が2台となっており少ないのではないか。
- ・バイパスが開通すると、駅での一般車乗降や駐車場の利用が増えることが予想される。

【委員長】

- ・利用者としては一般車乗降スペースをなるべく多くしたい思いがあるが、スペースを増やすとその場で待機してしまう車両が発生するため、そういった待機車両は、短時間駐車場に移動して待機するマナーと誘導が必要だと思う。
- ・限られた空間の中で、一般車乗降スペースを増やして解決できる問題ではなく、送迎される方のマナーの問題が大きいと思う。

【委員】

- ・先程、意見のあった大きな枠組みに関連して、駅の利用者にとっての安全性、快適に使える駅や広場整備が第一だと思う。
- ・大月駅は大月市にとって顔の役割を果たすため、広場を大月の特徴である自然との調和を実感できるような駅前広場にしたいのではないかと考える必要があると思う。
- ・市の歴史的な流れとして、かつての主要産業である織物関連の古い建物がまだ駅前に残っており、どのように活かしていくのかを考える必要があると思う。
- ・駅前の広場は公共空間として非常に重要であり、現状では公共空間があまりないため、どのような位置づけとするか検討する必要があると思う。
- ・もう一点として、商店街等の中心市街地活性化と連携させるため、民有地の誘導・活用等についても検討が必要である。

【委員長】

- ・交流広場とされている空間の活用イメージを補足説明して欲しい。

【事務局】

- ・交流広場は駅前広場と一体的に利用できる空間確保を目指しており、柵などの障害物・障壁等は一切設けない予定である。
- ・自由通路の階段から富士急行に向かう動線（連絡通路）部分に大屋根を整備することで、富士急とJRを行き来する際に雨天時でも快適に通行できる空間確保を予定している。また、現在JCが行っている土曜夕市などをこのスペースで開催して人溜りができるような空間確保を行いたい。

【委員長】

- ・次にデザイン・アドバイザーの紹介と提案に移りたい。

*デザイン・アドバイザーの紹介及び意見交換

【事務局】

（デザイン・アドバイザーの紹介）

- ・時間的な制約があるため、細かい経歴等は配布資料を確認して頂きたい。
- ・アドバイザーからの提案について資料説明をお願いしたい。

【委員（アドバイザーB）】

- ・まず先程の議論に対して、予算への配慮も大切だが、駅というものがこういったものであるべきなのかということを考えないといけないのではないかと考える。理想型を色々出した後で、大月として目指す方向性を固める必要があると思う。

（資料説明）

【委員（アドバイザーA）】

- ・個人的に最初に受けた印象として、駅や広場が非常に狭い印象を受けた。
- ・デザインを考える際に、物語性やシナリオをつくる必要がある。例えば、機能的な歩行者動線というのは安全性が高いが、心の動線を考えることが非常に重要であり、最近の駅というのは機能的過ぎてストーリーも無くつまらない空間になっている。
- ・大月市より委託を受けた経緯の1つとして、今までに無い駅を作りたいという思いがある。
- ・地理的に東京に近いため、鉄道の観光客は大月より先に流れている。その理由として、個性や特徴、面白みが少ないことが挙げられる。

- ・東京からの近さを逆手にとって「こんな近いところに、こんなに面白いところがあったんだ」と思わせることが可能になる。
- ・テーマとしては、自然や季節感、歴史、月、富士山といった要素が重要になってくる。これらをいかにして駅の空間やデザイン、施設の中に取り込んでいくかを考えていくことになると思う。
- ・今回は「南口広場」「北口広場」「橋上駅舎」「南北自由通路」の4つを個々に考えるのではなく、トータルに考えてデザインしていくことが大切である。
- ・また、我々がよくやる手法として、まちづくりの大きなコンセプトを決める際に、宝探しを行うことがあり、地域の宝（資源・魅力）探しを踏まえて、デザインに進んでいくことがある。

【委員長】

- ・デザイン・アドバイザーからの提案や意見であったが、これらについて何かあるか。

【委員】

- ・猿橋駅では、猿橋をモチーフにした駅を作っており、福祉センターでは、岩殿山の岩肌をモチーフにしているようであるが、大月においても特徴的なものができたらよいと思っている。

【委員（アドバイザーB）】

- ・猿橋をイメージするといっても、そのまま作っては問題がある。デザインに反映させるのはエッセンスを使うことであり、形を真似ることではない。

【委員（アドバイザーA）】

- ・甲府では、歩道橋をワインカラーの紫に塗装している所が有り、ブドウ・ワイン 紫色という特徴ある要素を直接翻訳してデザインや色に反映させてしまっている。
- ・作られた環境や空間、施設と人間が係わったときに、どういったイメージを起こさせるかが大切であり、表層だけを直接的な表現で作ってしまうと問題がある。人との係わりの中で生まれる大月らしさを表現して行きたいと考えている。
- ・駅周辺の現状は山も多いが電線・架線も非常に多く、これらが無くなればもっと素晴らしい景色になるのではないか。
- ・駅には様々なポスターが貼ってあるが、ポスターというのは駅を貧相に見せることがあるため、新しくできる駅にはポスターを一切貼らないといったことも考えられる。
- ・直球のデザインではなく、見たり感じたりしたものをデザインやストーリーの中に活かしていきたいと考えている。

【委員長】

- ・アドバイザーからの資料にあった、眺望や軸線を活かすのは、非常に面白く、そこにしかないモノ（景色）ということで、大月市の特徴を出せると思う。
- ・文化といった面では、関連事業や方策として人が集まった時に行う活動・交流のコンテンツ・ソフト方策などの対応も必要になってくる。
- ・駅前広場の考え方についても出てきたが、事務局の検討案とアドバイザーからの案を次回までに整合させて再度、提出して欲しい。
- ・今回の事務局資料は南口についての資料であったが、北口広場についても検討案を出して欲しい。
- ・次に、アンケート調査企画案について事務局から説明をお願いしたい。

(4)その他

【事務局】

（資料説明）

- ・前回の委員会で市民からの意向把握を行って欲しいという意見があったため、アンケート調査を行って、市民からの意見抽出を行いたいと考えている。
- ・7月にはアンケートを発送することを予定している。

【委員長】

- ・この場で全てに目を通すのは難しいため、後日で構わないので、質問項目を増やすなど何かあれば、事務局に連絡することとする。
- ・次回に修正版を再度、提出する時間的な余裕が無いため、事務局と私の方で調整すること

でよろしいか。

【全委員】

(異議なし)

【委員】

・可能であれば、次回から資料の事前配布をお願いしたい。

【委員】

・アンケートの回収はいつまでに行うのか。

・指標として使われることは理解したが、市民要望を計画へも反映させて欲しいので、なるべく早く回収して欲しい。

・一般の立場からでは、検討案を複数案出されてもどちらが良いのか分からない。

【委員】

・委員長と事務局で調整を行い、絞った案を委員会の場に出して欲しい。

・当日資料を見て、意見を述べることは難しい。

【委員長】

・アンケートや資料については、スケジュールに配慮して進めることとしたい。

・次回の日程について、7月19日(水)14:00~市民会館で開催を予定している。

【事務局】

・今後の委員会資料については、極力、事前送付を行えるよう進めて行きたい。

以 上

【第3回大月駅周辺整備検討委員会のとりまとめ】

表中____部：委員長によるとりまとめ

項目	主な意見内容
南口駅前広場のレイアウト案について	<ul style="list-style-type: none"> ・広場内に2階建て駐車場が必要ではないか。 ・一般車駐車を連絡する横断歩道の場所等に配慮をして欲しい。 ・バスよりも一般市民の乗降を優先すべき。 ・さつき通りは生活道路なので、一方通行となると生活に支障を与える恐れがある。 ・限られた空間の中で、敢えてバスのロータリーを取る必要はない。 ・広場の入口部分に、横断歩道を設置したほうが良いのではないかと。横断歩道の設置により、事故防止につながるのではないかと。 ・安全性を考えると、バスレーンと分けた動線分離型の方が良いと思うが、スペース上の問題が残る。使いやすさより安全性を取るのであれば、動線分離型がよいのではないかと。 ・もう少し両案について具体的な比較検討を行うべきではないかと。 <p><u>歩行者の使い勝手など総合的にみて、ロータリー型を基本に詳細検討を進める。</u></p> <p><u>今回指摘された事項や詳細の部分について、今後の設計の中で対応や検討を進める。</u></p>
市民アンケート調査・地元説明会について	<ul style="list-style-type: none"> ・地元説明会を他地区でも実施して欲しい。 ・本計画を市民に周知させることは大切である。 ・アンケートの集計・分析を配慮して行って欲しい。 <p><u>地元（駅周辺）以外に対する説明については、計画のどの段階で行うかなど配慮が必要になる。</u></p> <p><u>今回実施しているアンケート調査も1つの意見抽出になっている。</u></p>
駅及び自由通路の基本設計案について	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターやエスカレーターは必ずしも利用者がいるから設置を行うのではなく、安全や使い勝手を考慮して設置を検討して欲しい。 ・自由通路の正面の樹木は、大月の語源であるケヤキを使用して欲しい。 ・現在のログハウス風の駅舎は残して欲しい。 ・材質や質感についての具体的なイメージはあるのか。 <p><u>今回提出されたデザインで今後設計を進める。</u></p>

第3回 大月駅周辺整備検討委員会

議事録

日 時：平成18年7月19日（水） 14:00～16:30

場 所：大月市民会館 4階視聴覚室

1. 開 会

2. 委員長挨拶

【委員長】

- ・限られた時間ではあるが、様々な立場からの意見ををお願いしたい。

【事務局】

- ・会社等の異動に伴い委員の交代があり、事務局より名簿の説明を行う。（別紙）

3. 議 題

(1) 第2回検討委員会議事録の承認について

【委員長】

- ・第2回検討委員会議事録の承認について、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

- ・第2回検討委員会議事録は資料の事前配布をさせて頂いたので、内容について紹介は割愛させて頂いていただく。

【委員長】

- ・第2回検討委員会議事録について何か意見はあるか。
- ・修正事項等が無いようなら、次の議題に移る。

(2) 第2回検討委員会での要望意見等について

南口駅前広場のレイアウト案について

【委員長】

- ・第2回検討委員会での要望について議題が3点ほど挙がっているが、補足説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

- ・議事録については、大月市のホームページ上に本日以降に公表を予定している。
- ・レイアウト案については、第2回検討委員会で議論を行ったが、一定の方向性が定まらなかったため、基本的には前回と同じだが、タクシーの乗降場やバスの乗降場など台数等の細かい数字を入れずに、ロータリー型と動線分離型にポイントを絞った資料を提出している。

(資料説明)

【委員長】

- ・まず、南口側の広場の形式について論点を絞ってロータリー型か動線分離型かを、委員会として結論を出したい。
- ・今の事務局の説明について何か質問等あるか。

【委 員】

- ・「一般車乗降場」と「一般車駐車場」の使い分けはどのようになるのか。
- ・ロータリー型と動線分離型の駐車場の台数について、おおよその目安を教えてください。
- ・ロータリー型の図中、バスの流れを示す青い線はバスの乗降場に行くのではないのか。
- ・ロータリー型は、さつき通りから一般車駐車場へアクセスできる利点があったが、交通量が多いところを横切るので危険ではないのか。危険が減少できるような配慮がされるのか。

【事務局】

- ・一般車乗降場は降車のみで、駐車はしないということが前提になる。
- ・ロータリー型は身障者用のスペースを含め10台程度が確保できる。動線分離型は6台程度である。

- ・バスの動線はご指摘のように、ロータリー型には路線バス乗降場のところに青い線が入っていないが、点線から東京方のエリアが路線バスが走行するスペースである。
- ・さつき通りからの車両流入・流出については、設計や公安委員会、道路管理者などの協議の中で交通標識等の安全策を検討していく。

【委員長】

- ・駐車台数について、前はもう少し確保されていたが、動線分離型の方がやはり台数は少なくなってしまう。
- ・さつき通りに関しては、道路面のマーキングなどで、誘導する必要があるのではないかと。

【委員】

- ・バスの駐車スペースについて前回3台駐車であったが、変更は無いのか。また、3台で十分なのか。
- ・交通量の推計はどのように予測されているのか。判断の根拠を教えてください。

【事務局】

- ・バスのバースは3台で事業者と協議を行っている。現状では、駅前にバスが最大6台入っているため、3台での運行にあたっては、バス事業者の協力が前提になっている。
- ・将来交通量予測に関しては、大月バイパス開通を前提にした調査に基づいている。

【委員】

- ・前はロータリー型の1案、2案、動線分離型の3案があり前はA-1案で話が進んでいたような気がする。
- ・前回と今回のロータリー型は、若干違うようだが、その違いはどうしてなのか。
- ・前回、一般車駐車場はロータリー型で10~20台と示されていたはずで、今回は10台と示されているということは、規模がかなり異なっている。前のイメージを捨てて、ロータリー型か動線分離型かを考えていけばよいのか。

【事務局】

- ・ロータリー型の一般車駐車場10台という数は、計画案の精査を進めた結果、見直しを行った。

【委員】

- ・ロータリー型か動線分離型かについて、考えていけばよいのか。

【事務局】

- ・そのようにお願いしたい。

【委員】

- ・前回資料より、バス走行レーンが倍くらい確保しているのは何故か。

【事務局】

- ・バスレーンは車両の大きさ等から、バス乗降場への安全な軌跡等を検討した結果に基づいている。

【委員長】

- ・検討案の細かい設定条件が明示されていないが、今回はロータリー案と動線分離案で議論を進めたい。

【委員】

- ・一般車駐車場に入るために渋滞が発生するのではないかと。
- ・余裕を持たせるために、広場内に2階建ての駐車場整備は行えないのか。

【事務局】

- ・この場で結論は出せないが、現在のところ平面駐車場で考えている。

【委員長】

- ・駅を利用する方の利便を最大限に考えているので、一般車の駐車に関しては必要最低限の設定条件にしている。その結果として、駐車台数が前回より少ない数になっている。

【委員】

- ・ロータリー型の長所に、すべての車両の流れが一定方向で運転手は混乱しないとあるが、さつき通りからの車の流入が可能のため、バスの運行に支障をきたし、混乱を招く恐れがある。統一がとれている動線分離型のほうがよいのではないかと。

【委員長】

- ・全てのアクセス道路から流入が可能なということは、裏を返せば錯綜するという危険性が増えるということにもなる。

【委員】

- ・動線分離型は、さつき通りからどのように駐車場にアクセスするのか。

【委員長】

- ・さつき通りから入ってくる車両は、駅へのアクセスではなく、国道 20 号方面に行くために駅前を通るという位置づけである。

【委員】

- ・個人的にはロータリー型に賛成したい。
- ・現在の駅利用を考えると、駅への送迎車が多い。
- ・一般車駐車を連絡する横断歩道の場所等に配慮をして欲しい。横断して駅に行くことの危険性を心配している。

【委員長】

- ・横断歩道というのは必ずでてきてしまう。横断距離を短くしたりする工夫は出来ると思う。

【委員】

- ・ロータリー型のほうが全体的に良い気がする。動線分離型はバスを優先しすぎているため、バスよりも一般市民の乗降を優先すべきだと思う。さつき通りは生活道路なので、一方通行となると生活に支障を与える恐れがある。

【委員】

- ・ロータリー型でよいと思う。
- ・限られた空間の中で、敢えてバスのロータリーを取る必要はない。
- ・動線分離型で、さつき通りを一方通行化した場合、とても不便になる。

【委員】

- ・基本的にはロータリー型でよいと思う。
- ・また、広場の入口部分に、横断歩道を設置したほうがよいのではないか。横断歩道の設置により、車の注意喚起につながるのではないかと。

【委員長】

- ・幅員の関係や交通量の問題から、横断歩道の設置には検討が必要になる。

【委員】

- ・安全性を考えると、バスレーンと分けた動線分離型の方が良いと思うが、スペース上の問題が残る。使いやすさより安全性を取るのであれば、動線分離型がよいのではないかと。

【委員長】

- ・基本的にはロータリー型を中心に進めていきたいと思う。
- ・今回指摘された事項や詳細の部分については、今後設計を進める中で対応や検討を進めたい。

【委員】

- ・問題となるのは朝の通勤時間帯などのピーク時に混乱する心配がある。
- ・せっかく整備したものが危ないものになってはいけなないので、動線分離型を現段階で捨て案とするのではなく、もう少し具体的な検討を両案について行った方がよいのではないかと。
- ・一般車両にとって、便利になることは良いと思うが、逆に増えすぎて混乱する恐れがある。
- ・全体として駅の使い方をもっと考え、場合によってはバス優先にすることも考えるべきだと思う。

【委員長】

- ・基本的な計画設定としては、処理できるように提案しているので、ピーク時の混乱といった心配はないと思う。
- ・一般車両は送迎を中心としたものを対象としているので、増えることはないと思う。
- ・歩行者の使い勝手など総合的にみて、ロータリー型を基本に詳細検討を進めることで良いかと。

【委員全員】

(異議なし)

市民アンケート調査について / 地元計画説明会について

【委員長】

- ・次に市民アンケート調査と地元計画説明会の説明を続けてお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

【委員長】

- ・アンケート調査は早急を実施したかったため、事務局と私のほうで、調査項目の検討を行った。
- ・次回には調査結果を報告したい。
- ・地元説明会の意見は委員会での議論に反映させて頂きたい。

【委員】

- ・地元計画説明会の質疑応答の中に、「市民全体に説明するのが当然だと思う」という意見があるが、全体は難しいとしても数箇所で行うべきではないか。

【委員】

- ・アンケートの問6、問7が上手に切り分けられていない。同じような質問内容のため、集計・分析の際に配慮して欲しい。

【委員長】

- ・地元計画説明会の他地区での実施について、行政としての考えはあるか。

【事務局】

- ・他地区での地元説明会については、検討委員会での意見も参考に考えたい。

【委員長】

- ・地元計画説明会ということで今回は行っているが、それ以外の場所については計画のどの段階で行うかなど配慮が必要になる。
- ・アンケートも1つの意見抽出になっている。

【委員】

- ・大月市として大きな事業費をかけるこの計画は、大月市民全体に関わってくるため、市民全体になるべく早い時期に説明を行う必要があるのではないか。

【委員長】

- ・行政が事業を進める中で考えることであり、我々としては検討委員会として事業の説明を行うべきかどうかを考えるのが役目だと思う。

【委員】

- ・検討委員会の議論にも、大月駅周辺に住んでいない人に対して、事業にどのように関心を持ってもらうか、ということの考え方が重要ではないか。

【委員】

- ・市民に周知させることは大切だと思うので、行政で積極的に検討していただきたい。

【委員長】

- ・本委員会の議事録を公開しているので、理解していただける機会にはなると思う。

(3) 駅舎及び自由通路の基本設計案について

【委員(アドバイザーB)】

(資料説明)

- ・3案挙げているが、3つ中で1つに絞るのではなく、それぞれの案から良い箇所をピックアップしていきたいと考えている。

【委員長】

- ・軸線に沿って斜めの自由通路を設けることで、南北の連絡と周辺の山々の両方考慮されている。

【委員(アドバイザーB)】

- ・斜めに自由通路を渡すことで、変化に富んだ演出を意図している。

【委員】

- ・エレベーター、エスカレーターは上り・下りにつくのか。

【委員(アドバイザーB)】

- ・現在、両方向に設置する予定である。予算との兼ね合いになるが設置する方向でいる。

【委員】

- ・必ずしも利用者があるから設置を行うのではなく、安全や使い勝手を考慮して設置を検討して欲しい。

【事務局】

- ・駅構内についてはJRの施設になるため、JRの考え方次第になるがエレベーターは必ず設置

される。またエスカレーターについては、上り・下りの両方に設置されるかは今後の検討になる。

- ・駅構外である自由通路についてはエレベーター、エスカレーターともに北口・南口に設置を予定している。

【委員】

- ・現在のログハウス風の駅舎を残したい。
- ・自由通路の正面の樹木は、大月の語源であるケヤキを使ってほしい。
- ・線路上空に人が出ることは平気なのか。

【委員（アドバイザー B）】

- ・ログハウス風が大月の歴史にふさわしいのか今後検討しなければいけないと思うが、ログハウス風が要望として多いのであれば、それをどのように生かすか検討したい。
- ・ケヤキはシンボル樹として季節感もあるし、樹形がきれいなのでとてもいい提案だと思う。
- ・手すりの高さをどのようにするか、物を落とさないような仕組みをすることで、対応ができると思う。

【委員】

- ・現段階で、材質や質感のイメージは既に持っているのか。

【委員（アドバイザー B）】

- ・現在のところ、まだ具体的なイメージはない。色彩はモノトーンや茶系統のイメージで、屋根については瓦をイメージしている。ほかの素材についてはまだわからない。

【委員】

- ・橋上駅舎の配置として、自由通路を挟んでどちらに設置を考えているのか。
- ・北側の支障施設の場所や規模は、こちらでも検討したい。

【委員（アドバイザー B）】

- ・駅舎位置は甲府方も検討したが、仮駅舎設置等コストが増加するため、仮駅舎を作らない東京方を考えている。

【委員】

- ・仮駅舎を作らない方法は良いと思うので、鉄道事業者としても、ホームや列車の停止位置等の関係から駅舎位置等について総合的に確認・検証したい。
- ・また、北側の支障物件の場所や規模については、市と調整を行いたい。

【委員長】

- ・駅舎や自由通路については、JR と調整を行い、良いものができればと思う。
- ・他に何かなければ、このデザインで今後設計を進めることになるが良いか。

【委員全員】

（異議なし）

（4）その他 次回の日程について

【委員長】

- ・何か気づいた点があれば、事務局に連絡していただきたい。
- ・その他連絡事項などについて、事務局からお願いしたい。

【事務局】

- ・8月8日の市政祝賀式典の中で尾登先生をお招きして、大月のまちづくりについて30分程度ではありますが講演をお願いしている。皆様のご来場をお願いします。

【委員（アドバイザー A）】

- ・私は基本的に工業デザイン専門である。このような計画では、基本的にはシナリオライティング、ストーリー作りをしながら進めていく。
- ・浦和のサッカースタジアムなどもサッカー場としてではなく、劇場空間としていかに人間を感動させるかといった考えで計画を行った。
- ・公共でありながら地域の特徴を出せるようなデザインを考えて行きたい。

【事務局】

- ・次回の日程は、9月25日（月）14時～ 大月市総合福祉センターで開催を予定している。
- ・次回も資料の事前配布を行う。

以上

【第4回大月駅周辺整備検討委員会のとりまとめ】

表中____部：委員長によるとりまとめ

項目	主な意見内容
市民アンケート調査について	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果からみて、市民は事業に対して不安を持っているように思う。 ・自由意見で商業施設に関する意見が多いが、商店の将来的な動向を分かっている範囲で教えて欲しい。 <p><u>アンケート調査の結果と計画案の整合が必要である。</u></p> <p><u>商店街などの話は、次回の委員会で議論を行う。</u></p>
ワークショップアンケート（大月短期大学主催）の扱いについて	<ul style="list-style-type: none"> ・本委員会で実施したアンケートも自由回答について整理されているので、別に調査されているアンケートを同列には出来ないと思う。 ・ワークショップの結果を参考にして、市民の意見を広く取り入れることが大切だと思う。 ・突発的に答えるアンケートと、いろいろ考えた上でやるワークショップのアンケートでは結果が異なると思うので、参考にするのはよいと思う。 <p><u>大月短期大学主催のワークショップにおける意見抽出（アンケート）については、本委員会主催ではないため参考扱いとする。</u></p>
駅舎デザイン・活用方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・今の待合室は非常に良いが、計画にあるように待合室は2階になってしまうのか。 ・大月駅はJTBの21世紀に残したい駅100選にも入っているので、現駅舎の保存や何らかの方法での活用、イメージの存続を希望したい。 ・鉄道事業者としては完全な保存は難しく、保存の程度についても未定である。 <p><u>広場の待ち合せスペースについては、現在設計の中でシェルターという形で1階に待ち合わせスペースを整備する。</u></p> <p><u>現駅舎の取扱いについては、駅舎の設計段階でデザイン要素などとして反映することも検討してもらいたい。</u></p>
景観形成の検討プログラムについて	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わい創出、まちなみ形成、交通結節点整備、これらの3つが本来なら並行して進められるのが望ましかったと思う。 ・ソフト方策からのハード整備について積極的に検討して欲しい。 ・景観検討については、一般市民をもっと加えた検討体制をつくって欲しい。 <p><u>検討の体制については後日に改めて話し合いを行う。</u></p>

第4回 大月駅周辺整備検討委員会

議事録

日時：平成18年9月25日(月)14:00～

場所：大月市総合福祉センター 6階多目的ホール

1. 開会

2. 委員長挨拶

【委員長】

- ・今回で第4回の検討委員会になり、駅周辺地区整備コンセプトなどをみなさんに審議していただきたい。みなさんのご協力をお願いしたい。

3. 議題

(1) 第3回検討委員会議事録の承認について

【委員長】

- ・第3回検討委員会議事録の承認について、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

- ・第3回検討委員会議事録は資料の事前配布をさせて頂いたので、内容についての説明は割愛させて頂いた。

【委員長】

- ・何か議事録に関して修正事項等はあるか。

【全委員】

(異議なし)

【委員長】

- ・修正事項等が無いようなら、次の議題に移る。また、なにか修正事項等があった場合は、事務局に連絡を頂きたい。

(2) 市民アンケート調査について

【委員長】

- ・アンケートの集計・分析について説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

【委員長】

- ・アンケートについて、説明の前半部分で意見・質問等はあるか。

【委員】

- ・アンケートに補足として、9月10日に大月短大で行ったワークショップから抽出した意見について、資料を用意しているので報告したい。

【委員長】

- ・ここでは、議論を整理する意味もあり、本委員会の場では大月短大で実施したアンケート(ワークショップ)とは切り離して進めたいと思う。
- ・ワークショップのアンケートの扱いについて、委員の意見を伺いたい。

【委員】

- ・前回、なるべく広く市民の意見を取り入れると決まったので、そういった活動(ワークショップ)で出た意見(アンケート)も参考にしてよいのではないか。

【委員】

- ・本委員会で実施したアンケートも自由回答について整理されているので、別に調査されているアンケートを同列にはできないと思う。
- ・ただし、何か参考になるようなものがあればともよいと思う。

【委員】

- ・突発的に答えるアンケートと、いろいろ考えた上でやるワークショップのアンケートでは結

果が異なると思うので、参考にすることはよいと思う。

【委員】

- ・ワークショップの結果を参考にして、市民の意見を広く取り入れることが大切だと思う。

【委員長】

- ・委員会としてワークショップでのアンケートの扱いをどうするか。いろんな意見を参考にするのはよいが、最終的に何をどのような形で参考にしたかが大切である。
- ・市や本委員会が入ったワークショップではなく、大月短大が実施したワークショップは委員会に直接関わりはない。

【委員】

- ・検討に入る前に参考として説明を頂いてから、委員会の議事を進めてもよいのではないかな。

【委員長】

- ・参考にするとということで、ワークショップにおけるアンケートの説明をお願いしたい。

【委員】

(資料説明)

- ・これまで2回のワークショップを実施しており、第1回目のワークショップは行政と市民の共同で行った。
- ・今回報告するのは、第2回のワークショップから抽出された意見を整理している。
- ・大月駅周辺整備の必要性について疑問があげられており、1つ目が財政問題との関連で費用対効果が得られるのか、2つ目が情報開示・市民の声を反映した計画かどうか、3つ目は計画によって大月市の活性化につながるのか。というのが、主要意見としてあげられている。

【委員長】

- ・何か今の件について質問等はあるか。また、市民アンケート調査についても、何かあるか。
- ・市民アンケート調査の結果と整備計画案の方向性がうまくかみ合っている必要があるため、A3資料にあるように市民意見と計画案の整合をチェックするのは大切である。
- ・アンケートで指摘されているにも関わらず、整備計画案に対して全く意見が反映されていないとなると問題である。
- ・整備計画案をもう少し充実しても良いのではないかなというのが、アンケート調査からわかる。

【委員】

- ・自由意見で商業施設に関する意見が多いが、駅前広場沿いにはどういった商店が立地するのか、現段階で分かるのなら教えてもらいたい。
- ・駅前広場周辺の商店の将来的な動向をわかっている範囲で教えてもらいたい。

【委員長】

- ・この委員会では、これまで駅舎のデザイン・駅前広場のデザインについて議論してきた。
- ・商店街等の駅周辺地区については、次回から議論を予定している。
- ・アンケート調査の概要5ページ問8で、第1位の「活気ある商店街を中心とした地区」が、A3資料には駅前商店街へのアクセスの将来像で入っているのだが、それでよいのか。確認も含めて、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・市民ニーズの中にあるように、駅前については元気のある商店街を望む意見が多い。
- ・現在、整備計画案に予定している事業メニューは2項目ある。駅前景観の整備(ファサード)と、ひろさと村等の空き店舗対策の充実、さらに商店街活性化との関連性で、駅周辺の登山路の整備を予定している。
- ・賑わいがあり、人が回遊し、商店街を歩けるような、事業メニューの追加を考えており、具体的には、大月商店街協同組合の方々と検討をしている。
- ・第1回検討委員会の際に示した整備メニュー案には、賑わいづくりについて特にあげていないが、この事業の目的は中心市街地の活性化である。
- ・南口駅前の商店街の将来像については、基本的には居住者の移転・代替地の確保の中で、商店街再建を地域のみなさんと方向性が一致するように努力したい。
- ・空き店舗対策については、現在ひろさと村等において空き店舗対策の協議を進めている。
- ・登山路については、岩殿山と菊花山の登山路の整備を考えている。

【委員長】

- ・次回は地区整備の部分について資料を出して欲しい。

【委員】

- ・駅舎を2階ではなく、1階のままで北口へアプローチできないのか。今の待合室は非常によいので、計画にあるように待合室が2階でよいのか。
- ・大月駅はJTBの21世紀に残したい駅100選にも入っているので、現駅舎の保存や何らかの方法での活用、イメージでの存続を希望したい。
- ・アンケート結果で自由回答の駅舎保存の欄で事業メニューとの関連性が「 」になっているが、「 」にして頂きたい。

【事務局】

- ・待ち合わせのスペースとして、1階部分には、壁で囲われた待合室の計画は現在予定していない。あくまで現在は、風雨がしのげる屋根のある場所として計画している。
- ・議論の結果どうしてもとなれば、別の考え方をしなければならないので、みなさんの意見を伺いたい。
- ・現駅舎の持つ歴史性が大月にふさわしいものかを検討する中で、取り入れるものは取り入れていく考えでいます。
- ・現駅舎の保存方法には完全保存もあれば写真などによる記録保存や部分保存といった色々な方法が考えられる。市民アンケートも踏まえ、次回審議・検討を改めてお願いしたい。

【委員】

- ・市としては早く事業を行いたい考えがあると思うが、アンケート結果からみて、市民は事業への協力に対して不安を持っているように思う。
- ・委員としてどこまで意見を出していいのか分からない。というのは、富士急と市の協議はどのようになっているのか。富士急の西側にある土地開発公社の土地はどうするのか。
- ・アンケートの結果にもあるように、 期・ 期・ 期で段階分けをしたらどうか。

【委員長】

- ・第 期・第 期を想定して進めている検討ではない。
- ・JR・富士急・大月市の間で、別のテーブルにおいて順調に協議・調整を行っている。
- ・富士急のことについては、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・富士急行大月駅舎の建て替えを、この計画と並行して計画している。JR大月駅舎は2階に駅舎を作り、富士急行大月駅舎は地中で建て替えを計画している。富士急には、大月駅周辺整備事業と歩調を合わせて、計画を進めていただいている。
- ・土地開発公社の用地については、市営駐車場の再整備という形で計画している。

【委員長】

- ・広場の待ち合わせスペースについては、現在設計の中でシェルターという形で1階に待ち合わせスペースを整備することになっている。

【委員】

- ・本当に商店街の活性化につながっていくのだろうか。

【委員長】

- ・商店街などの話は、次回に議論を行いたい。
- ・現駅舎の保存は橋上駅舎の計画案が変わってしまうので「 」にはできない。
- ・現駅舎の取扱いについては、駅舎の設計段階でデザイン要素などとして反映することも検討してもらいたい。

【委員】

- ・鉄道事業者としては完全な保存はできないと思う。
- ・保存の程度については、デザイン・記録など、どういう形になるかは未定である。
- ・待ち合わせスペースについては、設計の中で詰めていきたい。

(3) 駅周辺地区の景観形成の検討プログラムについて

【委員長】

- ・景観形成の検討プログラムについて事務局のほうから説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

【委員長】

・検討プログラムについて事務局から説明があったが、何か質問等はあるか。

【全委員】

(異議なし)

【委員長】

・賑わいの創出にむけた検討はどのように進めていくのか。

【事務局】

・賑わい創出については、自由通路・広場を使ったイベントなどを考えており、来年度以降に本検討委員会で検討していきたい。

【委員長】

・賑わい創出について、この委員会の中でソフト方策について検討するのか。

【事務局】

・景観の検討体制と、大月駅周辺整備検討委員会での役割分担については、事務局としても位置づけがまだ固まっていないが、景観については独立した検討体制を作ったほうがよいのではないかと考えている。

【委員長】

・景観形成について、何か他に意見はあるか。

【委員】

・景観形成とまちづくり計画の資料4ページ目に3つの円があるが、本来ならこれらが並行して進められるのが望ましかったと思う。
・大月商店街協同組合などと議論をしているようだが、ソフトからのハードについて積極的に検討してほしい。

【委員】

・景観検討については、検討委員会のメンバーに加えて一般市民をもっと加えた検討体制をつくってほしい。

【委員長】

・委員構成については、今後詰めていくことになる。

【委員】

・景観を検討していくのは、この検討委員会だと理解したのだがよろしいか。

【事務局】

・景観形成についての検討体制については先程述べたとおり、この検討委員会でやるべきなのか、別の組織でやるべきか、現段階では未定であるため、体制について意見があれば、参考にさせていただきたい。

【委員長】

・別の検討体制の設立については、特に異議がないので検討の体制については後日に改めて話し合う。

(4) その他

【委員長】

・次に次回の日程について事務局からお願いしたい。

【事務局】

・当初、第5回を12月にとりまとめる予定していたが、残り1回でのとりまとめはスケジュールや議論のテーマ(ボリューム)として厳しいので、委員会の開催を1回追加したい。
・第5回の検討委員会を11月13日(月)14時~、場所は大月市総合福祉センター6階を予定している。
・第6回のとりまとめは12月に予定している。
・以上をもって第4回大月駅周辺整備検討委員会を閉会する。

以上

【第5回大月駅周辺整備検討委員会のとりまとめ】

項 目	主な意見内容
<p>駅周辺地区の まちなみ景観 の基本コンセ プトと今後の 推進体制につ いて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大月駅周辺地区の検討対象エリアはどの辺りを想定しているのか。 ・まちなみ景観の基本コンセプトにある基本方針は、来年度の見直しは可能な のか。 ・賑わいある商業地づくりといった時に、景観形成も大きな柱の一つだが、そ れだけでは賑わいづくりは解決しない。 ・部会は駅周辺の活性化についても議論するのか、または景観形成だけに焦点 をあてた部会になるのか。 ・セットバックや意匠関係のことは、なるべく多くの関係者が集まって議論を したほうがいいと思う。 ・事業実施段階で、事業区域内の住民からセットバックの話など計画を聞いて いないといった苦情が出ないようにしてもらいたい。 <p><u>部会の中で景観形成にかかわる基本的な考え方の合意形成と、景観整備ついで 直接利害が関係する地権者意向を調整していく必要がある、両方うまく機能 させるために十分な配慮が必要になる。</u></p> <p><u>来年度に検討体制を設立して、前半部分で景観形成に関わる基本的な考え方 の合意形成を図り、平成20年度からは実際の事業プログラムの実施という段 階になる。約1年の間にこの地元の景観形成に関する基本的な考え方を設定 して、その後、それに伴う調整の段階に入っていく。</u></p> <p><u>部会に参加していただく方々にスケジュールをイメージしていただいて、後 伸ばしにならないようにコントロールしていかないといけない。</u></p> <p><u>実際の進め方は、後のプログラムを考えると、できるだけ限定されたエリア に關係する人は検討部会に入っていて、景観整備事業に関わる調整な どを積極的に行っていく形を想定している。</u></p>
<p>現駅舎の取扱 いについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見の分かれるところであるが、大月の歴史を考えた場合に、完全保存とは言 わないが少なくとも部分保存ぐらいしなければ、後々後悔すると思う。 ・他都市の駅でも新しい駅を作る際に歴史性といったものがなくなってしまう 事が多く、大月駅は歴史性を残していくことが大月駅の個性になるのではな いか。 ・デザイン全体での調整は必要だが、少なくとも部分保存は考えられないだろ うか。逆に部分保存を前提に全体のコンセプトを考えることはできないのだ ろうか。 ・現駅舎は自由通路と橋上駅舎化の事業に支障する建物であり、現状のまま保 存することはないと思う。思想または部分活用といった形で検討していくの がよいと思う。
<p>デザイン・ アドバイザー からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より機能的かつ安全であり、ユニバーサルデザインに配慮した空間をいかに 作るのかがデザインである。デザインが良いということは、使い勝手も良い ということを中心に考える必要がある。 ・部分保存になると、よほど価値があるものでないと、部分を切り取ってどこ かに配置するということでは非常に変な形になってしまう。 ・形状や素材として新しいデザインに取り込むことについては可能性がある。 ・駅舎の保存については、まず一番に考えなければいけないのが何を残すのか ということだと思う。それは、形なのか、思想なのか、歴史なのかといった ように色々あり、先程の意見を聞いていると思想だと思う。 ・部分的に残すシミュレーションをしたが、どの位置に配置しても非常に違和 感があり、単体だけ配置すると背後が違うため浮いたイメージになってしまう。

<p>デザイン・アドバイザーからの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部分的に残すのであれば、北口の公園に東屋のような形で残せるのではないかと思う。 ・現状のまま保存するのが良いのかという問題がある。資料にあるように駅ができた当初の写真のような状態ならばいいが、現状では厚い塗装が塗られ偽木のような状態になっており、それを街のシンボルとして残していいものなのかという問題がある。
	<p>アドバイザーの話にもあったようにデザインというのは使い勝手がいいことで初めて成り立つもので、形だけの問題ではない。</p> <p>考え方や思想を継承しながら新しい歴史を作っていく方向だと思う。橋上駅舎をデザインするなかで、何が求められている機能なのか、どういう形のものを使い勝手のいいものになるのかを考えていかなければいけない。</p> <p>現駅舎が地域の人々にどういう点で評価されているのかを踏まえ、新しいデザインの中に反映させていくべきである。</p> <p>保存・活用方法について事務局の提案は、記録保存はもちろん行い、デザイン要素として新駅舎のコンセプトや細部、意匠などに反映させるという案である。</p> <p>アドバイザーから部分保存として残すのであれば、現状ではなく駅舎が作られた当初の形で北口の公園に東屋的なものとして残すことについても検討を加えてみてはどうかという提案が出たが、こういった方向でよろしいか。</p>
<p>まちづくり交付金本要望書の内容について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コインパーキングは、フラットなコインパーキングなのか。フラットであれば、イベント時にはイベントスペースとして活用ができると思う。 ・25の事業メニューの中にユニバーサルデザインという言葉がひとつも出てこないが、これはあらゆることに配慮しているということか。 <p>事業概要の中に、単に整備ということだけではなくもう少し基本方針などを記載して、次回に再提出して欲しい。</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大月の冬は寒いので風雨さえしのげればよいのではなくて、駅舎と同時に1階に（現駅舎の）待合も大月には大事だと思う。 ・河口湖の駅のように待合についてもJRだけでなく、富士急の辺りで確保できないか。 ・1階の待合を要望されていたが、今回できる駅は2階に改札口ができるため、待合を作る際に北口と南口から来られて駅員が見える範囲となると、2階に持ってこざるを得ないということを理解していただきたい。（アドバイザー） ・商店街など賑わいづくりに関わる内容について、今回触れなかったが、次回に審議するのか。 <p>賑わいづくりや商店街関連については、可能であれば、次回に議論を行うこととする。</p>

表中_____部：委員長によるとりまとめ

第5回 大月駅周辺整備検討委員会

議事録

日時：平成18年11月13日(月)13:00～

場所：大月市総合福祉センター 6階多目的ホール

1. 開会

2. 委員長挨拶

【委員長】

- ・第5回ということで、本委員会は残り1回の開催予定である。従って、今年度のまとめを視野に入れながら審議をしていきたい。
- ・議題にあるように、これまで検討してきた内容と今後の関連する検討事項を審議していきたいので、皆様のご協力をお願いしたい。

3. 議題

(1) 第4回検討委員会議事録の承認について

【委員長】

- ・第4回検討委員会議事録の承認について、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

【委員長】

- ・今回に継続して議論するような項目があったため、引き続き審議していきたい。
- ・何か議事録に関して修正事項等はあるか。

【全委員】

(異議なし)

【委員長】

- ・修正事項等が無いようなら、次の議題に移る。また、なにか修正事項等があった場合は、事務局に連絡を頂きたい。

(2) 駅周辺地区のまちなみ景観の基本コンセプトと今後の推進体制について

【委員長】

- ・事務局から資料の説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

【委員長】

- ・何か質問や意見等はあるか。
- ・確認したい点として、大月駅周辺地区の検討対象エリアはどの辺りを想定しているのか。

【事務局】

- ・事務局で想定している駅周辺地区は、基盤整備を行うところを想定している。南口は、県道大月停車場線の拡幅エリア、駅前広場と道路整備が行われる市道駒橋栄町線の道路拡幅が行われるエリアを想定している。北口は、現在、職員駐車場がある辺りを中心としたエリアを想定している。

【委員長】

- ・景観の検討体制については事務局からの提案で、本委員会の下に部会を設置して、検討していくという体制である。
- ・まちなみ景観の基本コンセプトにある基本方針は、来年度の見直しは可能なのか。

【事務局】

- ・本計画の中では、賑わいある商業地づくりの事業メニューのとらえ方が弱いと考えている。そういった中で、商工会や大商協、駅前を考える会などと協議をしているが、それらを踏まえて、来年度に改めて事業メニュー検討や提案をしていきたいと考えている。

【委員】

- ・賑わいある商業地づくりといった時に、景観形成も大きな柱の一つだが、それだけでは賑わいづくりは解決しない。
- ・部会は駅周辺の活性化についても議論するのか、または景観形成だけに焦点をあてた部会になるのか。

【事務局】

- ・景観についての部会と考えている。改めて賑わいづくりというものについては、来年度の本検討委員会のテーマとして引き続き検討していきたいと考えている。部会での検討テーマは、景観について絞った形で委員の方は景観の専門の方を想定している。

【委員長】

- ・これは事務局の提案で決定事項ではないので、何か意見等があればお願いしたい。

【委員】

- ・景観検討部会の構成で地元代表とあるが、地元の関係者の数や代表者は何名くらいを予定しているのか。
- ・セットバックや意匠関係のことは、なるべく多くの関係者が集まって議論をしたほうが良いと思う。
- ・事業実施段階で、事業区域内の住民からセットバックの話など計画を聞いていないといった苦情が出ないようにしてもらいたい。

【事務局】

- ・個人の権利を規制するような内容があるので、地元代表、地元関係者も入れたいと考えている。
- ・道路拡幅や駅前広場整備に伴う利害関係者にも部会に入ってもらい、意見を尊重した上で合意形成を図っていききたいと考えている。

【委員長】

- ・部会の中で景観形成にかかわる基本的な考え方の合意形成と、景観整備について直接利害が関係する地権者意向を調整していく必要があり、両方うまく機能させるために十分な配慮が必要になる。

【委員】

- ・時間があまりないなかで、急ぐからといって後に問題を残すのはまずいと思う。
- ・部会を設けた時に、スケジュールを明確にして結論づけていかないと時間的に厳しいのではないか。

【委員長】

- ・来年度に検討体制を設立して、前半部分で景観形成に関わる基本的な考え方の合意形成を図り、平成 20 年度からは実際の事業プログラムの実施という段階になる。約 1 年の間にこの地元の景観形成に関する基本的な考え方を設定して、その後、それに伴う調整の段階に入っていくといった感じである。
- ・そういう意味では、参加していただく方々にスケジュールをイメージしていただいて、後延ばしにならないようにコントロールしていかないといけない。
- ・一つは、景観形成に限定した形の議題を検討部会の中心にするという事務局案である。ただし、まちづくりのなかで景観形成がどういう位置づけにされるかということは、議論の前半部分で検討していかないといけない。
- ・実際の進め方は、後のプログラムを考えると、できるだけ限定されたエリアに関係する人は検討部会に入ってもらって、景観整備事業に関わる調整などを積極的に行っていく形を想定している。
- ・この件に関して、他に何かあるか。

【委員】

- ・確認したいのだが、全体のスケジュールの中で、南口については広場を形成することによって、既存の商店などを移さなければいけない。移転して新たに建設される建物に対して景観計画を反映させるために平成 20 年度に景観計画が出来上がっている必要があるということではよろしいか。

【事務局】

- ・その通りである。
- ・基盤整備エリアを対象とした景観づくりは、移転・建て替えを少なくとも平成 20 年度にスタ

ートしないと全体の5年間という中で全てのメニューが終わらないため、平成19年度中に景観計画を作り、計画に基づいた民間施設の建て替えを行っていくというスケジュールを想定している。

(3) 現駅舎の取扱いについて

【委員長】

- ・次に、現駅舎の取扱いについて資料の説明を事務局からお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

【委員長】

- ・前回のアンケートや委員からの意見として、現駅舎の保存や活用方法について意見があったため、検討委員会でも駅舎の扱いについて十分に審議をするということになった。
- ・事務局からの資料説明について意見や質問等はあるか。

【委員】

- ・完全保存というのは、資料の図でいうと色のついているところなのか。
- ・それぞれの保存方法にかかるコストが分かっていたら教えていただきたい。

【事務局】

- ・完全保存というのは色のついている部分で、部分保存というのはエントランス部分のみである。
- ・コストについては、まだ算定していない。

【委員】

- ・以前の検討委員会でアドバイザーから、新しい駅舎の設計イメージの中で、駅舎の保存は難しいという話があったが、広場内に東屋などとして残した場合どうなのか。

【委員長】

- ・アドバイザーからは、後で意見をお伺いすることにしたい。
- ・他に何かあるか。

【委員】

- ・駅舎の保存は様々な意見があると思う。
- ・大月の「月(櫓)」はケヤキを意味しており、ケヤキは806年頃に愛媛県の神社から三嶋神社に持ってこられたという謂れから大月の駅舎もケヤキを使っている。
- ・定かではないが安土桃山時代頃に大きい月が見えるということから名付けられたという由来もある。
- ・意見の分かれるところであるが、大月の歴史を考えた場合に、完全保存とは言わないが少なくとも部分保存ぐらいしなければ、後々後悔すると思う。

【委員長】

- ・資料の中では、建築物が持っている歴史性として判断している。
- ・ケヤキを材料として使われている駅舎を、材料の歴史があるという意味で保存していくという考えと、建物としての歴史性とは別の問題になるかと思う。

【委員】

- ・先程の歴史の話は、建物の歴史とは違うが重要な点であると思う。大月に住んでいる方と駅との関わりが大事だと思う。
- ・他都市の駅でも新しい駅を作る際に歴史性といったものがなくなってしまう事が多く、大月駅は歴史性を残していくことが大月駅の個性になるのではないか。
- ・デザイン全体での調整は必要だが、少なくとも部分保存は考えられないだろうか。逆に部分保存を前提に全体のコンセプトを考えることはできないのだろうか。

【委員】

- ・駅前で見かける光景として、登山客などが駅舎全体を写真に撮っており、やはり駅舎は大月の顔であると思う。
- ・前回も述べたが、待合室を残すことはできないのか。帯広駅には待合スペースがなく冬が大変だと地元の人が言っていた。大月の冬は寒いので風雨さえしのげればよいのではなくて、駅舎と同時に待合も大月には大事だと思う。

【委員長】

- ・待合の機能が今の設計案に反映にされていれば現駅舎の保存とは関係ないという理解でよろしいか。

【委員】

- ・1階部分に現駅舎の待合室を保存してほしい。

【委員長】

- ・アドバイザーから、デザイン要素としての現駅舎の活用・保存方法についてと、現駅舎への愛着の問題、待合機能の問題、建築物本体ではないがケヤキを使っているといった駅と街の歴史的な関連といった点について、新しいデザインにどのように活かしていくのかといった現時点での考えをお願いしたい。

【アドバイザーA】

- ・デザインは美しく魅力的なものを求めるが、より機能的かつ安全であり、ユニバーサルデザインに配慮した空間をいかに作るのかがデザインである。デザインが良いということは、使い勝手も良いということを中心に考える必要がある。
- ・まず橋上駅舎という前提なので、全体保存というのはありえないため、新しい駅舎の形を考えないといけない。
- ・部分保存になると、よほど価値があるものでないと、部分を切り取ってどこかに配置するという点では非常に変な形になってしまう。
- ・形状や素材として新しいデザインに取り込むことについては可能性がある。
- ・待合については、橋上になった際に1階部分に待合を確保するとすると、北と南に待合が必要となる。現在計画している案にも待合スペースは考えており、周辺の住民の方々が集うことができるような様々な機能を持った待合スペースを考えている。
- ・世界的にも様々な待合スペースがあるが、その土地の個性を生かすことが大切である。今回は、周辺とのつながりを意識して、岩殿山が見える待合スペースなど検討している。

【アドバイザーB】

- ・1階の待合を要望されていたが、今回できる駅は2階に改札口ができるため、待合を作る際に北口と南口から来られて駅員が見える範囲となると、2階に持ってこざるを得ないということを理解していただきたい。
- ・駅舎の保存については、まず一番に考えなければいけないのが何を残すのかということだと思う。それは、形なのか、思想なのか、歴史なのかといったように色々あり、先程の意見を聞いていると思想だと思う。設計の際にその土地の遺伝子をいかにして残していくかということを考えてきた。
- ・実際に部分的に残すシミュレーションをしたが、どの位置に配置しても非常に違和感があり、単体だけ配置すると背後が違うのため浮いたイメージになってしまう。
- ・部分的に残すのであれば、北口の公園に東屋のような形で残せるのではないかと思う。
- ・さらに、現状のまま保存するのが良いのかという問題がある。資料にあるように駅ができた当初の写真のような状態ならばいいが、現状では厚い塗装が塗られ偽木のような状態になっており、それを街のシンボルとして残していいものなのかという問題がある。木の思想を残すのであれば新築で作るべきだと思うが、これにはコストがかかってしまう。
- ・そういったことを踏まえ、新しい駅舎の中に大月の思想をいかにして反映させるかということ、例えばベンチとして配置するなどが考えられる。

【委員長】

- ・鉄道事業者の所有物であるため、鉄道事業者からの意見をお願いしたい。

【委員】

- ・現駅舎は自由通路と橋上駅舎化の事業に支障する建物であり、現状のまま保存することはないと思う。アドバイザーからの話にあったように、思想または部分活用といった形で検討していくのがよいと思う。

【委員長】

- ・本検討委員会では2回に渡って駅舎について議論してきたが、アドバイザーの話にもあったようにデザインというのは使い勝手がいいことで初めて成り立つもので、形だけの問題ではない。
- ・考え方や思想を継承しながら新しい歴史を作っていく方向だと思う。橋上駅舎をデザインするなかで、何が求められている機能なのか、どういう形のものが使い勝手のいいものになる

のかを考えていかなければいけない。

- ・現駅舎が地域の人々にどのような点で評価されているのかを踏まえ、新しいデザインの中に反映させていくべきである。
- ・保存・活用方法について事務局の提案は、記録保存はもちろん、デザイン要素として新駅舎のコンセプトや細部、意匠などに反映させるという案である。
- ・アドバイザーから部分保存として残すのであれば、現状ではなく駅舎が作られた当初の形で北口の公園に東屋的なものとして残すことについても検討を加えてみてはどうかという提案が出たが、こういった方向でよろしいか。(異議なし)

【アドバイザー A】

- ・思想を継ぐのはなかなか難しいことだが、例として、イタリアの郊外にジオ・ボンティという建築家が設計した病院の中の小さな教会があるが、この教会は光の取り込み方やディテールに優しさがあり通常の教会とは違う印象を与える仕掛けを建築家が施している。
- ・我々のデザインは眼に見えるものだけでなく、駅を舞台にしてどういった物語を仕組めるかが大切で、デザイナーとしてはでなく、我々も大月市民の視点で考えており、可能な限りいろいろな要素をいれていきたいと考えている。

【委員】

- ・これまでの議論はJRの駅舎についてであるが、富士急の駅についても市やアドバイザーと相談しながら進めてはどうか。
- ・富士急の駅は新築になるのか。

【委員】

- ・おそらく新築の駅になると思う。

【委員】

- ・それならば、河口湖の駅のように待合についてもJRだけでなく、富士急の辺りで確保できないか。
- ・JRばかりで富士急の話がでていないので、富士急の駅舎についても大月市でうまく整合させる必要がある。

【委員長】

- ・前回の話にもあったが、JRと富士急と大月市で別の場で協議を進めている。

(4) 整備プログラムと実現方策・・・設計内容の確認(まちづくり交付金本要望書の内容について)

【委員長】

- ・次の議題に移る。事務局から資料の説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

【委員長】

- ・この要望書は提出されているということだが、本検討委員会では、どのあたりを議論すればよいのか。
- ・事業メニューの追加や変更の話がでた場合どうなるのか。

【事務局】

- ・都市再生整備計画という補助事業は従来と違い、非常に柔軟性のある事業のため、年度ごとの事業見直し等が可能になっている。
- ・第6回の検討委員会のとりまとめに関係してくるが、ここであげている25の事業メニューについて大月駅周辺整備事業の4つの基本方針を基に、過不足がないかを意見をもらいたい。

【委員長】

- ・事務局からの説明について何か意見はあるか。

【委員】

- ・資料の12項目にシェルターとあるが、先程の話にもあったがバスやタクシーの待合についてどうなっているのか。また、シェルターというのはどのようなものと考えているのか。

【事務局】

- ・ここに掲げているシェルターは屋根がついてあり、シェルターの下にはベンチがある。壁面などで囲うことは想定していない。

【委員長】

- ・各事業の詳細については、今回の資料では判断が難しい。

【事務局】

- ・事務局として、このようなメニューを国に要望しており、これまで本委員会で議論してきた内容に対して事業の過不足や、反映されていない等のご指摘がいただけないかと考えている。

【委員長】

- ・事業メニュー一覧をいただいたうえでご意見をいただきたい。各事業の詳細については次回に分かる範囲で資料提出していただく。

【委員】

- ・コインパーキングとあるが、フラットなコインパーキングなのか。フラットであれば、イベント時にはイベントスペースとして活用ができると思う。

【事務局】

- ・フラットなコインパーキングを予定している。

【委員長】

- ・他に何かあるか。

【委員】

- ・北口には駐車場はないのか。

【事務局】

- ・北口の一般向け市営駐車場は予定していない。北口の駐車場利用については、今後行われる工場跡地を中心とした再開発の中で予定をしている。

【委員】

- ・あげられている25の事業メニューの中にユニバーサルデザインという言葉がひとつも出てこないが、これはあらゆるところに配慮しているということか。

【事務局】

- ・新設をする施設整備のなかでユニバーサルデザインを前提に設計を進めていくことになる。

【委員長】

- ・事業概要の中に、単に整備ということだけではなくもう少し基本方針などを記載して、次回に再提出して欲しい。

(5) その他

【委員長】

- ・次回のスケジュールについて事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・次回は12月6日(水)14時～、場所は大月市民会館で予定している。
- ・内容については事業メニューを再整理して資料を提出したい。第6回ということで、最後のとりまとめという位置づけにしたい。

【委員】

- ・商店街など賑わいづくりに関わる内容について、今回触れなかったが、次回に審議するのか。

【事務局】

- ・賑わいづくりに関しては、商工会や大商協と検討を進めているが、まだ成果として報告できる状態ではないため、少し時間を頂きたい。

【委員長】

- ・可能であれば、次回に議論を行うこととする。

【事務局】

- ・以上をもって第5回大月駅周辺整備検討委員会を閉会する。

以上

【第6回大月駅周辺整備検討委員会のとりまとめ】

表中____部：委員長によるとりまとめ

項目	主な意見内容
0. 大月駅周辺整備の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・大月駅周辺地区というのはどこを指すのかを、他の人が見てもわかるように図示した方が良い。 ・ゾーンの位置図的なものを加えた方が良い。
1. 交流拠点としての駅前広場の施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・南北通路の自由通路部分と駅舎部分については、計画範囲について個別に調整しているところなので、「個別に調整を進めている」といった一文をいれてもらいたい。 ・個別基本方針の備考欄などで具体的な内容については関係機関と調整中であるという旨の注意書きが必要だと思う。 ・南口レイアウト案のとりまとめで、ロータリー型の短所にあがっているようなものをできるだけなくすことを含めて、レイアウト案の具体化を図ると記述したほうがよいと思う。 ・駅前広場で待ち合わせをした時に、吹きさらしにされてしまうので何とかしてほしいという意見があったので、是非、明記して欲しい。 ・冬場に駅から出て、バスを待つ際にシェルターに囲いが無いのは非常に寒い思いをすることになる。 <p><u>この検討項目は、大月駅周辺整備の一番コア部分にあたるため、とりまとめに関しても重要視すべき部分である。</u></p> <p><u>主要意見が不足しているため、これまでの記録をチェックし、待ち合わせ空間の快適さの確保といった意見などを補足する。</u></p>
2.ユニバーサルデザインにもとづく施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインのトイレなど新しい設備は素晴らしいが、設備を充足するだけでなく、その設備の使い勝手にも配慮して欲しい。 <p><u>ユニバーサルデザインの具体化にあたって、交通バリアフリー法の標準的なデザインを適用することとしているため、大月市で独自の設備を検討し、開発するというのはスケジュールなどの問題から難しいため、主要意見として今の意見（上記）を加えることとする。</u></p> <p><u>ユニバーサルデザインについては、全ての施設整備に関する当然の配慮である。</u></p>
3. 魅力あるまちなみデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・「デザインコード」など一般向けではない文言の、表現を工夫して欲しい。 ・検討プログラムのスケジュールの時間設定が分かりにくいので、注意書きを入れてもらいたい。 <p><u>景観形成手法はセットバック以外にも考えられるため、沿道景観形成のための整備手法の検討など、部会ですべき課題を具体的に示しておいたほうがよい。</u></p> <p><u>図やスケジュールの表現をよくわかる形で修正する。</u></p>

項 目	主な意見内容
4. 賑わいのある商業地づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺整備に伴って商店街全域を含めた賑わいづくりが必要であり、そのため、街の回遊性などについて検討している。 ・ 賑わいづくりとして一番重要なのは駅に降り立った人が、駅前広場の周辺に魅力ある商業施設などを感じられる駅前づくりだと思う。 <p>商業の活性化に向けた取組みを実行していく必要があり、それらを今回の事業とどのように連携させていくかが必要である。</p> <p>現在、賑わい創出の具体的なメニューや取組みについては検討中ということであるが駅周辺整備において、賑わいある商業地づくりについて検討を行っていくことは重要であり、賑わいづくりに向けた方針を今年度は検討してきた。これらを来年度以降の検討委員会へ反映させて行きたい。</p> <p>賑わいづくりや商業地に関しては、商工会等の内部だけの議論でなく、来年度から本検討委員会の中で委員の皆さんと積極的に議論していきたい。</p>
5. 現駅舎の取扱い	<p>とりまとめの文章としては、基本方針として今後、何を検討するかを表現する方が良いので、表現を修正してほしい。</p> <p>「検討委員会における主要意見」に前回のデザインアドバイザーからの意見をまとめた方が良いのではないかと。</p>
6. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人にやさしい駅を実現するにはお金がかかるため、予算に関する配慮についても表現して欲しい。 ・ 膨大な事業費が伴う今回の事業において、大月市が活性化していく事業だという確信が、個人的には現段階で持つことができない。 ・ 全体的なとりまとめとして、委員の中に今回の事業や計画に対して懸念を抱いている意見もあるという旨を明記して欲しい。 ・ 富士急行の大月駅舎については、市と調整を進めているが、富士急行の駅舎も改築したいと考えている。 <p>事業の是非については、第1回の検討委員会でも話したが、本検討委員会は駅周辺整備の事前評価をする位置づけではないため、事業の必要性や事業効果を検討する場ではない。</p> <p>今回のとりまとめを受けて、検討委員会として市長に答申するとともに市民に公開されていく。検討委員会として最終的に取りまとめたものに対しては、全委員の合意を前提に公開していくことになる。</p> <p>主要検討課題に対するとりまとめについて議論してきたが、これについては本日の意見を基に修正を加え、大筋については本検討委員会として了承された。</p>

第6回 大月駅周辺整備検討委員会

議事録

日時：平成18年12月6日（水）14:00～

場所：大月市民会館 4階視聴覚室

1. 開会

2. 委員長挨拶

【委員長】

- ・資料にあるように、主要な検討課題の案が出ており、いずれも委員や市民アンケートなどから出てきた意見を取りまとめたものである。まとめ方として、このような形でいいか議論して頂き、今年度の検討委員会としてのとりまとめを行いたい。

3. 議題

(1) 第5回検討委員会議事録の承認について

【委員長】

- ・第5回検討委員会議事録の承認について、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

(資料説明)

【委員長】

- ・まちなみ景観の基本コンセプトについては、来年度に設置予定の検討体制の中で具体的な検討を進めて行くという位置づけになっている。
- ・まちづくり交付金やその他の議題については、本日の委員会の中で引き続き検討していきたい。
- ・何か議事録に関して修正事項等はあるか。

【全委員】

(異議なし)

【委員長】

- ・修正事項等が無いようなら、次の議題に移る。

(2) 主要検討課題に対すとりまとめ(案)について

【委員長】

- ・冒頭で述べたように、これまで5回の委員会を開催し、様々な議論を行ってきた。今回提出している資料は、今年度に議論してきたことを集約し、とりまとめたものである。
- ・項目ごとに分けながら資料の説明を事務局からお願いしたい。

【事務局】

(参考資料 及び、資料2のP1・P2「0. 大月駅周辺整備の基本方針」の資料説明)

【委員長】

- ・表現の方法や内容について確認していただきたい。何かあるか。
- ・大月駅周辺地区というのはどこを指すのかを、他の人が見てもわかるように地図などを載せたほうがよいと思う。
- ・2頁にゾーンという言葉が急に出てきているが、ゾーンという言葉を使うならば、模式図的なものを掲げておいたほうが良いと思う。
- ・何か他に無ければ、次の説明を事務局からしていただく。

【事務局】

(資料2のP3・P4「1. 交流拠点としての駅前広場の施設整備」の資料説明)

【委員長】

- ・交流拠点としての駅舎・駅前広場の施設整備という項目は、大月駅周辺整備の一番コア部分にあたるため、とりまとめに関しても重要視すべき部分である。
- ・駅前広場の全体方針、広場整備個別の基本方針、ユニバーサルデザインの基本方針、デザイ

ンの問題として南口のレイアウト案、以上4点についてとりまとめをしているが、これらについて何かあるか。

【委員】

- ・南北通路の自由通路部分と駅舎部分については、計画範囲について個別に調整しているところなので、「個別に調整を進めている」といった一文をいれてもらいたい。

【委員長】

- ・基本方針ということでとどめているが、見られた方が基本方針の中身を超えて詳細な計画内容を個人の主観で読み取られてしまうと問題がある。
- ・個別基本方針の備考欄などで具体的な内容については関係機関と調整中であるという旨の注意書きが必要だと思う。事務局から何か案はあるか。

【事務局】

- ・ご指摘の通り、現在JRと大月市で協議中であるので、概念図的な形で修正をしたい。

【委員長】

- ・資料2の3頁に文章としても、注意書きを入れていただきたい。
- ・南口レイアウト案のとりまとめで、文言は事務局に任せるがロータリー型の短所にあがっているようなものをできるだけなくすことを含めて、レイアウト案の具体化を図るといった記述したほうがよいと思う。

【委員】

- ・駅前広場で待ち合わせをした時に、吹きさらしにされてしまうので何とかしてほしいという意見があったので、是非、明記して欲しい。

【委員長】

- ・主要意見が不足している感じがするため、これまでの記録をチェックし、待ち合わせ空間の快適さの確保といった意見などをもう少し補足したほうがよいと思う。
- ・他に何かあるか。次の説明を事務局からお願いしたい。

【事務局】

(資料2のP5「2.ユニバーサルデザインにもとづく施設整備」の説明)

【委員長】

- ・ユニバーサルデザインについては、全ての施設整備に関する当然の配慮である。
- ・ユニバーサルデザインとして重点的に考えなければならないのは、橋上駅舎化に伴う上下移動への配慮や、目が不自由な人、足が不自由な人に配慮した段差や出入口、通路等の安全性などがこの地区の持っている特性とユニバーサルデザインの関係だと思う。
- ・委員から何かあるか。無いようなら、次の説明を事務局からお願いしたい。

【事務局】

(資料2のP6「3.魅力あるまちなみデザイン」の説明)

【委員長】

- ・何か意見等はあるか。
- ・検討体制の中身が6頁の中央に記載されているが、検討部会で何を議論していくのか。また、検討委員会で出てきた主要意見を検討部会ではどのように反映させていくのか。
- ・ここでいうセットバックの意味がよくわからないので説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・第4回の検討委員会の資料として主要検討課題を整理しており、その中の事例にあるように、建替えの際に1階部分セットバック、建物全体をセットバックして周囲に調和した意匠の建物にするなどをイメージしている。

【委員長】

- ・セットバック以外にも考えられるため、沿道景観形成のための整備手法の検討など、部会ですべき課題を具体的に示しておいたほうがよいと思う。

【事務局】

- ・検討部会の課題という形で沿道景観形成手法という文言で入れるということか。

【委員長】

- ・検討部会において合意形成まで図っていくことになるか未定のため、合意形成の手法を部会で検討するというようにしておいたほうがよいと思う。
- ・デザインコードというのはどういうものか。

【事務局】

- ・第4回の検討委員会で資料提出した建築のデザイン、緑のデザインなどそういったものを個々に決めていく必要があるということである。

【委員長】

- ・一般向けではない文言だと思うので、表現を工夫して欲しい。

【委員】

- ・検討プログラムにあるように、平成20年度までに全部収まるか分からないため、表現をぼかした方が良いのではないかと。過去の状況に配慮しながらタイムスケジュールの表現は工夫した方が良いと思う。
- ・人にやさしい駅を実現するにはお金がかかるため、予算に関する配慮についても表現して欲しい。

【委員長】

- ・検討プログラムのスケジュールの時間設定が分かりにくいので、注意書きを入れてもらいたい。
- ・まちなみのデザインの章なので、事業予算の問題はこの章ではなく、資料2の1頁に入れるか、最後のページに整備事業に関わる予算の問題を検討委員会の見解として入れるということだと思う。
- ・この章に関して、他に何かあるか。

【委員】

- ・6頁図にあるように検討部会は、中長期のところまで引き続き検討を行っていくのか。

【委員長】

- ・短期を中心とした、駅周辺事業に関わる景観形成を検討する位置づけなのか、またはエリアを広げて時間のかかる景観形成も検討部会の役割として考えていくのか。

【事務局】

- ・大月駅周辺整備事業に関する部会であり、この5年間で行われる基盤整備事業に直接関係する景観形成について部会で議論を行っていく。

【委員長】

- ・今の件については、とりまとめのところによくわかる形で表現して欲しい。
- ・他に何かあるか。なければ次の説明を事務局からお願いしたい。

【事務局】

(資料2のP7・P8「4.賑わいのある商業地づくり」の説明)

【委員長】

- ・商業の活性化に向けた取組みを実行していく必要があり、それらを今回の事業とどのように連携させていくかが必要である。
- ・現在、賑わい創出の具体的なメニューや取組みについては検討中ということであるが駅周辺整備において、賑わいある商業地づくりについて検討を行っていくことは重要であり、賑わいづくりに向けた方針を今年度は検討してきた。これらを来年度以降の検討委員会へ反映させて行きたい。
- ・何か意見はあるか。

【委員】

- ・前回のとりまとめの最後に賑わいづくりや商店街関連について、可能であれば次回に議論を行うとしたので、駅周辺整備事業が駅全体の活性化にどう繋がっていくのか、大月市全体の活性化にどのように繋がっていくのか可能な範囲で考えを聞きたい。

【委員】

- ・検討委員会の中でこれまで議論してきた、駅直近のエリアだけがリニューアルされて賑わいが生まれてくるだけでは、商店街として問題がある。
- ・駅周辺整備に伴って商店街全域を含めた賑わいづくりが必要であり、そのため、街の回遊性などについて検討している。
- ・大月橋から三嶋神社のエリアのなかで、普段は気づかないような価値のあるものを拾い上げて、スケッチして地図にして市民の方や来街者に見ていただき、街の中を歩いてもらえるような取組みを考えている。
- ・また、県の補助事業としてアートまちづくりという事業を行っており、地元の美術関係者の

協力をいただいて、駐車場の壁面などに絵を描いてもらっている。

- ・このような取り組みから商店街とお客様だけの関係だけではないコミュニケーションが生まれてきている。現在、活動の拠点として使っていただけるような場の提供についても研究をしている。

【委員長】

- ・商店街だけの議論も必要だが、もう少し輪を広げて、様々な委員がいる検討委員会の場でも来年度は議論をして行きたい。

【委員】

- ・賑わいのある商業地づくりについては、今年度の検討委員会では議論していないため、とりまとめを設けているのは不思議な感じがする。
- ・賑わいづくりとして一番重要なのは駅に降り立った人が、駅前広場の周辺に魅力ある商業施設などを感じられる駅前づくりだと思う。
- ・県内でいくつか駅整備をしているが、塩山駅においては、きれいにはなったが寂しい感じがする。山梨駅では駅前空間が広がったため、商業施設が駅直近に見当たらない状態である。
- ・こういったことを踏まえて、駅前をいかに賑やかにしていくかを第一に検討する必要があると思う。

【委員長】

- ・この検討委員会で賑わいのある商業地づくりについて議論ができなかったが、資料の中で項目として整理しているのは、ハードとして演出されるような手立てである。
- ・景観や賑わいづくりについて全体的な基本方針はあげているが、本年度は具体的な検討を行っていない。
- ・景観については、来年度検討部会を設置し、積極的に議論を行うことになっている。
- ・賑わいづくりや商業地に関しては、商工会等の内部だけの議論でなく、来年度から本検討委員会の中で委員の皆さんと積極的に議論していきたい。
- ・それでは次の説明を事務局からお願いしたい。

【事務局】

(資料2のP9「5. 現駅舎の取扱いについて」の説明)

【委員長】

- ・現駅舎の取扱いについて何かあるか。
- ・この件については、これまで委員会の中で様々な議論を行ってきたが、とりまとめにあるように今後、具体化を図って行くということになっている。

【委員】

- ・保存・活用方向の具体化として、現駅舎の部分保存(設置当初の復元)の検討とあるが、現駅舎の部材を使用して設置するのか。

【事務局】

- ・現駅舎の部材ではなく、新しい部材からの設置を検討していきたい。
- ・部分保存という表記は、前頁の表中でエントランス部分の保存を「部分保存」としているためである。

【委員長】

- ・とりまとめの文章としては、基本方針として今後、何を検討するかを表現する方が良いので、表現を修正してほしい。
- ・「検討委員会における主要意見」に前回のデザインアドバイザーからの意見をまとめた方が良いのではないか。
- ・他に何か意見はあるか。なければ次の説明を事務局からお願いしたい。

【事務局】

(資料2のP10~P14「6. その他」の説明)

【委員長】

- ・何か意見や質問はあるか。

【委員】

- ・14頁について事業の8番目が「県道大月停車場線」となっているが、路線名は、都市計画道路路名の「大月駅前通線」ではないか。
- ・また、延長が54mではなく、60mではないか。

【委員】

- ・13番と15番のシェルターというのは大きな屋根ということか。

【事務局】

- ・13番のシェルターというのは、概要に記載しているとおり、乗降場に設置するもので、15番は大きな屋根として、JRと富士急とを連絡する位置に設置を考えている。

【委員長】

- ・表現を分かりやすく修正して欲しい。

【委員】

- ・乗降場のシェルターには冬の寒さを防ぐような囲いは設置されるのか。

【事務局】

- ・乗降場のシェルターは屋根があるのみである。囲いのようなものは予定していない。

【委員】

- ・冬場に駅から出て、バスを待つ際にシェルターに囲いが無いのは非常に寒い思いをすることになる。

【委員長】

- ・今の意見に関しては、4頁の主要意見部分に、快適さの確保として今の意見を追加してほしい。

【委員】

- ・ユニバーサルデザインのトイレなど新しい設備は素晴らしいが、設備を充足するだけでなく、その設備の使い勝手にも配慮して欲しい。

【委員長】

- ・ユニバーサルデザインの具体化にあたって、交通バリアフリー法の標準的なデザインを適用することとしているため、大月市で独自の設備を検討し、開発するというのはスケジュールなどの問題から難しいため、主要意見として今の意見を加えることとする。
- ・その他に何か意見はあるか。

【委員】

- ・以前に紹介したワークショップなどにおいて、今回の事業に対して相当な不安を抱いている方が多く見られる。
- ・膨大な事業費が伴う今回の事業において、大月市が活性化していく事業だという確信が、個人的には現段階で持つことができない。
- ・橋上駅舎を前提に今回の委員会が進められているが、現在のような地平駅の方が利用しやすいという意見もある。
- ・そういったことを踏まえて、全体的なとりまとめとして、委員の中に今回の事業や計画に対して懸念を抱いている意見もあるという旨を明記して欲しい。
- ・他の委員の中にも同様の意見を持っている方がいるかもしれないので、この件について議論して欲しい。

【委員長】

- ・第1回の検討委員会でも話したが、本検討委員会は駅周辺整備の事前評価をする位置づけではないため、事業の必要性や事業効果を検討する場ではない。
- ・利用者のニーズや意見を様々な利用者の立場から、委員の皆様に議論して頂いている。
- ・今回のとりまとめを受けて、検討委員会として市長に答申するとともに市民に公開されていく。検討委員会として最終的に取りまとめたものに対しては、全委員の合意を前提に公開していくことになる。
- ・本日提出された資料であるとりまとめ(案)については、本日の意見を踏まえて微修正を行うが、基本的には問題ないか。

【全委員】

(異議なし)

【委員長】

- ・先程の発言に戻るが、今回の事業を行う必要性や予算の問題に対して、この検討委員会の場で今後扱っていくのか。または、その判断については別の議論の場に委ねるのか。
- ・もう1つは、今回示した基本方針を実現するために必要となる様々な事業に対しては、来年度以降も検討委員会の中でチェックを行っていくことになる。

- ・この件に関して、何か意見はあるか。
- 【委員】
- ・別の話になるが、富士急の駅舎は将来的にどのようなになるのか、現段階で可能な範囲で教えて欲しい。
- 【委員】
- ・現在、市と調整を進めているが、利用者の利便性を考慮して、できるだけ JR の駅舎に近づけるように検討しており、今回の事業に対してもできる限り協力し、富士急の駅舎も改築したいと考えている。
- 【委員】
- ・今の線路はそのままになるのか。
- 【委員】
- ・以前に線路を移設する検討もあったが、線路の線形を変えるのは、非常にお金がかかるため難しい。
- 【委員長】
- ・議論を整理したいと思う。主要検討課題に対するとりまとめについて議論してきたが、これについては本日の意見を基に修正を加えるが、大筋については本検討委員会として了承されたということでのよろしいか。
- 【全委員】
- (異議なし)
- 【委員長】
- ・それでは、最後の議題として、その他に移りたい。
- 【事務局】
- ・これまでは、議事録を承認いただいてから市のホームページに公開していたが、今回は議事録を作成次第、皆様に送付し、修正事項等を連絡いただきたい。
 - ・とりまとめについては、加筆・修正を行い議事録と合わせて送付し、議事録と同様に内容について確認いただきたい。
 - ・それらを受けて、委員長より本検討委員会からの答申を市長にする予定である。
 - ・また、駅周辺整備の平成 19 年度からの事業着手に向けて検討を進めているが、都市計画決定の見直し等に際し、市民説明などを実施していく予定である。
- 【委員長】
- ・市長への答申はいつ頃を予定しているのか。
- 【事務局】
- ・年内を目標に委員の確認を頂いた上で、答申を行いたいと考えている。
- 【委員長】
- ・事務局からの説明に関して何かあるか。
 - ・先程あったように、事業の是非に対する議論も必要かとは思いますが、これまで 6 回の検討委員会の中で議論してきた課題に対しては、一定のとりまとめができたと思う。
 - ・今後、積み残し課題もあるため、引き続き皆様の協力を頂き、事業を推進していきたい。
- 【事務局】
- ・長期間に渡り、御協力いただきありがとうございました。

(以上)